

診療科等のクリニカルインディケーター(CI)について

- ・平成28年4月1日から「消化器内科」を設置しました。平成28年度「消化器内科」のCIには「第1内科」「第2内科」の実績も含まれます。

- ・平成29年4月1日から「第1内科」「第2内科」「第3内科」「膠原病・感染症内科」「消化器内科」の5診療科体制を「循環器内科」「腎臓内科」「肝臓内科」「血液内科」「神経内科」「呼吸器内科」「内分泌・代謝・糖尿病内科」「膠原病・感染症内科」「消化器内科」の9診療科体制に変更しました。

平成28年度までの実績には、旧診療科の実績も含まれます。

- ・令和3年4月1日から「肝臓内科」は「消化器内科」となりました。

第5部 診療科等活動実績

循環器内科

2. 大学病院特有項目： 心血管カテーテル治療件数

▶ 項目の解説

心臓を栄養している血管(冠動脈)の狭窄や下肢動脈の狭窄をバルーンで拡張したりステントと呼ばれる金属製の網状の管を留置したりする治療です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

当科では様々な合併症を抱える虚血性心臓病患者を中心に、患者背景に十分配慮したカテーテル治療と、最適な術後薬物療法を提供できるよう努めています。

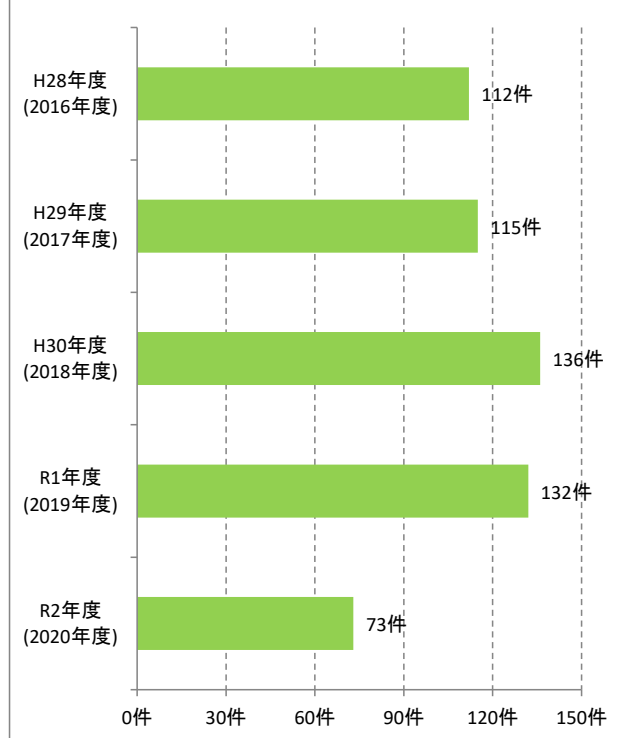
算式

延べ患者数

単位

件

心血管カテーテル治療件数



心臓カテーテルアブレーション治療件数

▶ 項目の解説

カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)治療は、局所麻酔下でカテーテルという直径2mm位の管を心臓内に挿入して、不整脈のもととなる異常な部分に高周波電流を流し焼灼を行う治療です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

当科では県内の幅広い地域から多種にわたる不整脈疾患患者の紹介を受け、患者数は年々増加しております。最近では心房細動に対する治療も開始しております。

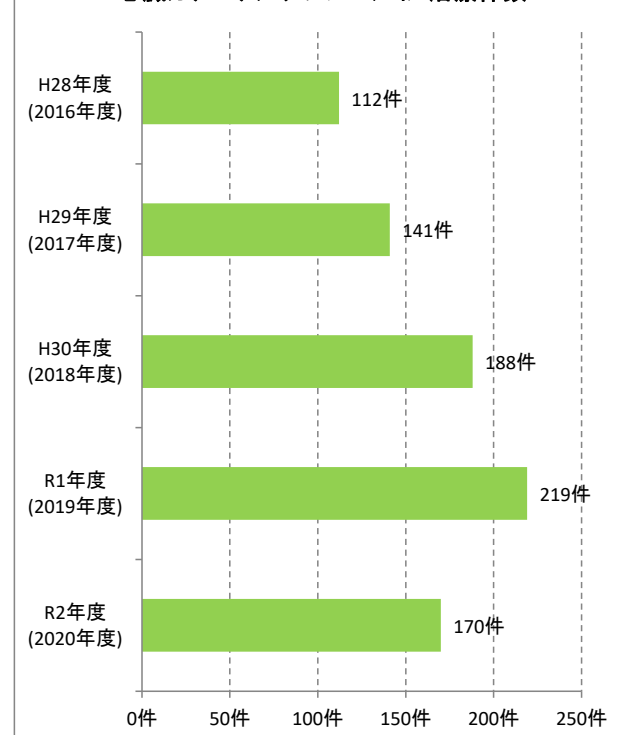
算式

延べ患者数

単位

件

心臓カテーテルアブレーション治療件数



ICDおよびCRT-D 植込み術

▶ 項目の解説

ICDは致死性の不整脈(心室頻拍、心室拍動)を治療する植込み型除細動器であり、CRT-Dは通常のペースメーカー機能に加え、心不全治療機能の心臓再同期療法(CRT)とICDの機能を搭載した植込み型の治療機器です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

宮崎県内でも本治療を施行し得る施設は少ないのですが、ICD及びCRT-D植込み術の適応患者は年々増加傾向にあります。当科では、カテーテルアブレーション治療と同様に積極的に本治療に取り組んでいます。

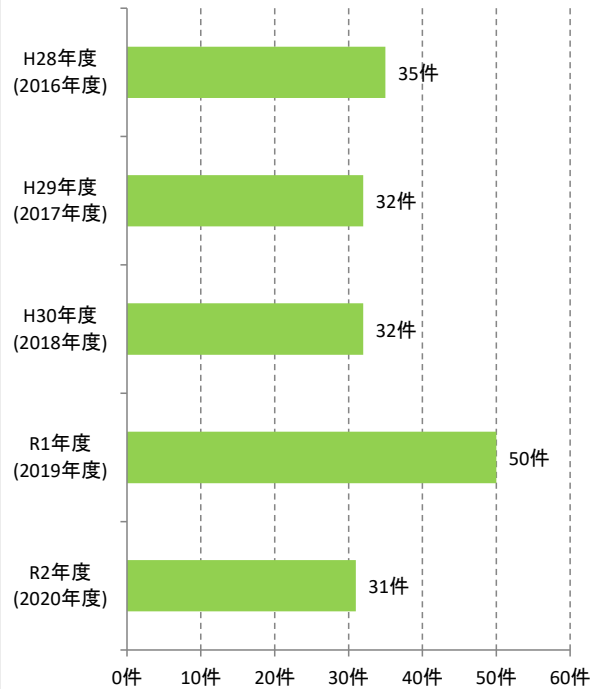
算式

延べ患者数

単位

件

ICDおよびCRT-D 植込み術



1. 一般的項目：腎生検数

▶ 項目の解説

経皮的に腎臓の一部を生検針にて採取する検査です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

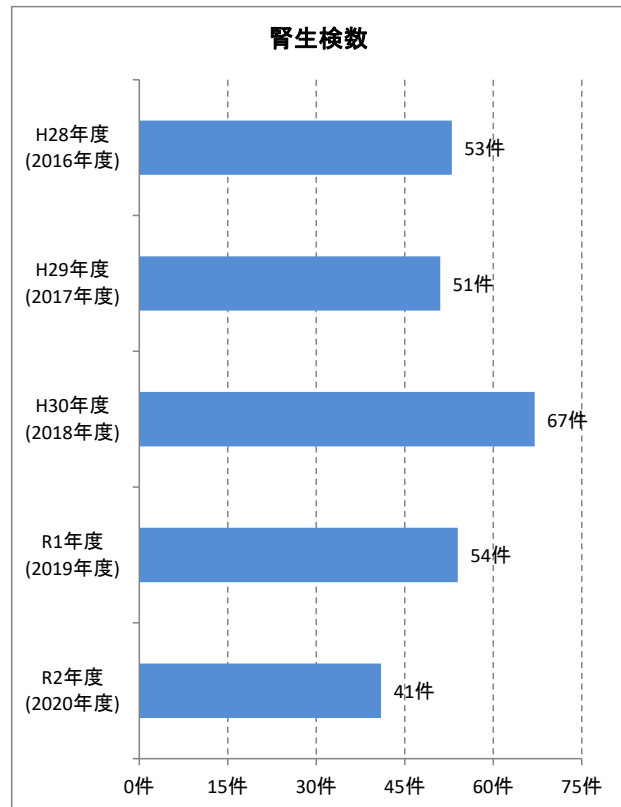
腎臓疾患をできるだけ正確に診断する手段です。
それに基づき、各患者に合った治療方法の選択が可能となります。

算式

延べ件数

単位

件



2. 大学病院特有項目：難治性腎疾患に対するアフェレシス療法

▶ 項目の解説

難治性の腎炎(ANCA関連血管炎を含む)・ネフローゼ症候群に対して、血中から人体に有害な物質を体外へ除去し、重篤な病態の改善を図る治療法です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

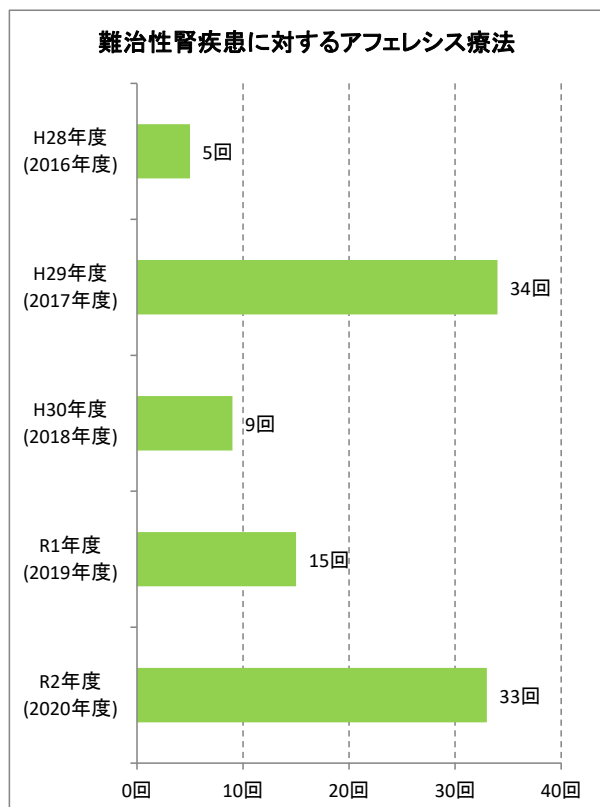
通常の内服治療のみでは改善の得られない難治性腎疾患において用いられる体外循環療法(血液を体外に出し、有害な物質を除いて体内に戻す)です。

算式

延べ回数

単位

回



血液内科

1. 一般的項目： 造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数

▶ 項目の解説

血液内科では白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍に対し、化学療法、分子標的療法、自己末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植を行っています。南九州地区ということもあり成人T細胞白血病/リンパ腫(ATL)も多く、その治療に取り組んでおります。

▶ 定義

年間の造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数

コメント

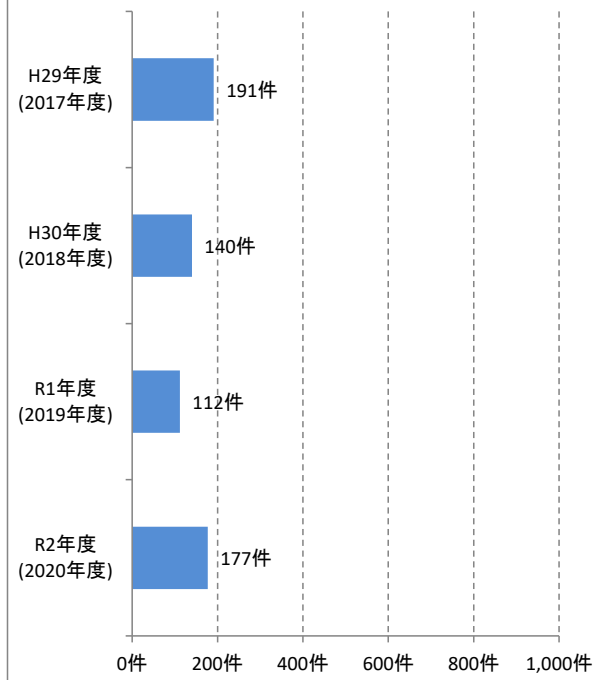
算式

造血器悪性腫瘍に対する
化学療法の症例数

単位

件

造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数



2. 大学病院特有項目： 造血幹細胞移植症例数

▶ 項目の解説

同種造血幹細胞移植については、特にさい帯血移植やパブロ移植についても取り組んでおります。

▶ 定義

年間の造血幹細胞移植症例数

コメント

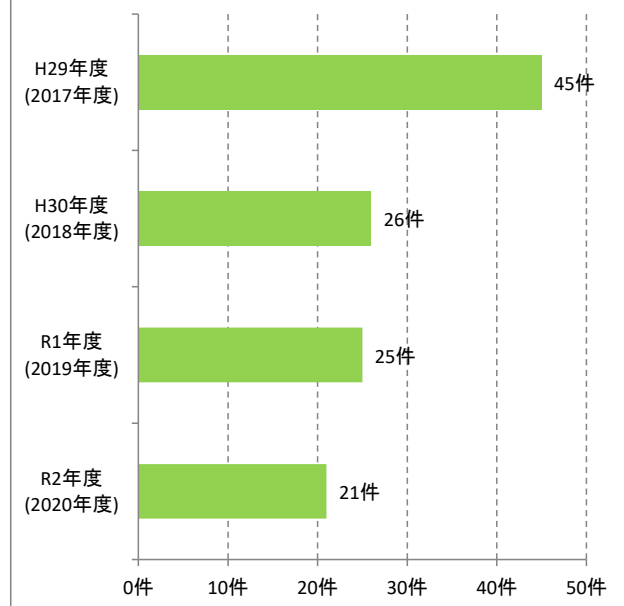
算式

造血幹細胞
移植症例数

単位

件

造血幹細胞移植症例数



脳神経内科

1. 一般的項目： 中枢神経感染症治療

▶ 項目の解説

緊急を要する脳炎や髄膜炎などの中枢神経感染症の救急患者受け入れ実績で、早期診断・治療開始を行います。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

県内各地から神経内科救急患者を受け入れております。その中でも中枢神経感染症の割合は多く、早期診断・治療に努めております。

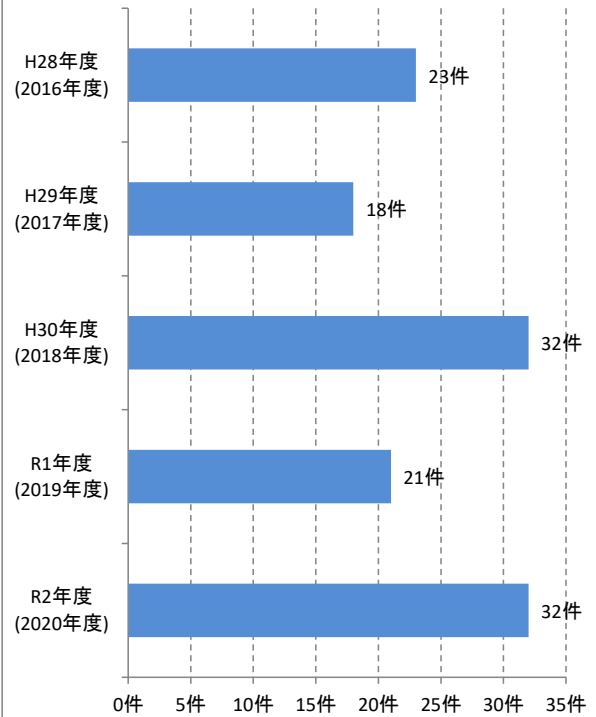
算式

件数

単位

件

中枢神経感染症治療



2. 大学病院特有項目： 筋疾患における病理学的診断

▶ 項目の解説

筋疾患は筋病理学的診断が必要な疾患が多くあるため、当科では筋生検を行って最終的な診断を行っております。

▶ 定義

年間の筋生検件数です。

コメント

県内では筋生検の可能な施設が限られるため、多くの施設からの診断依頼を受けております。

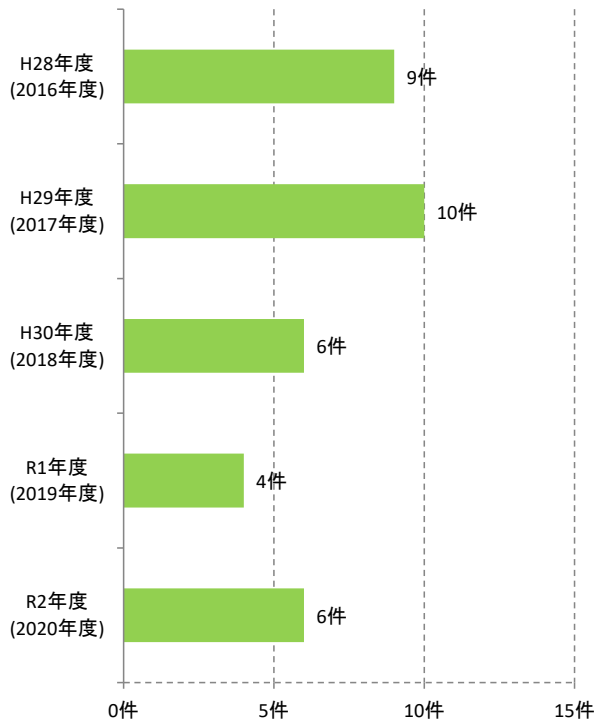
算式

件数

単位

件

筋疾患における病理学的診断



1. 一般的項目： 肺癌治療成績

▶ 項目の解説

呼吸器疾患の多くを占める肺がん患者の治療件数は、診療体制の充実度を評価します。

▶ 定義

年間の新規肺がん化学療法導入数です。

コメント

年によって多寡はありますが、肺癌の新規治療導入数は一定数を維持しています。

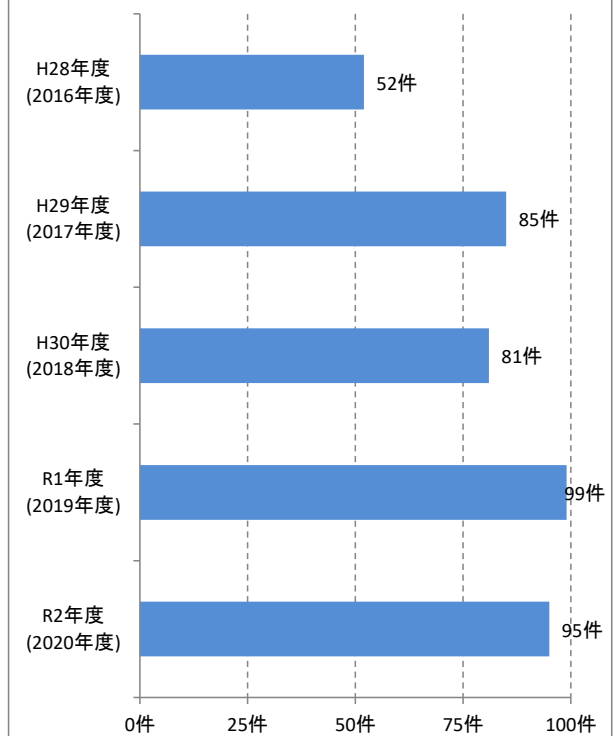
算式

新規患者数

単位

件

肺癌治療成績



2. 大学病院特有項目： 超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA)

▶ 項目の解説

縦隔リンパ節を気管支鏡にて生検することができます。肺癌のリンパ節転移や、サルコイドーシス、悪性リンパ腫の診断に有用な検査です。

▶ 定義

超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA) の延べ検査数です。

コメント

県内で対応できる病院が少なく、県内各地から患者様が来院されます。

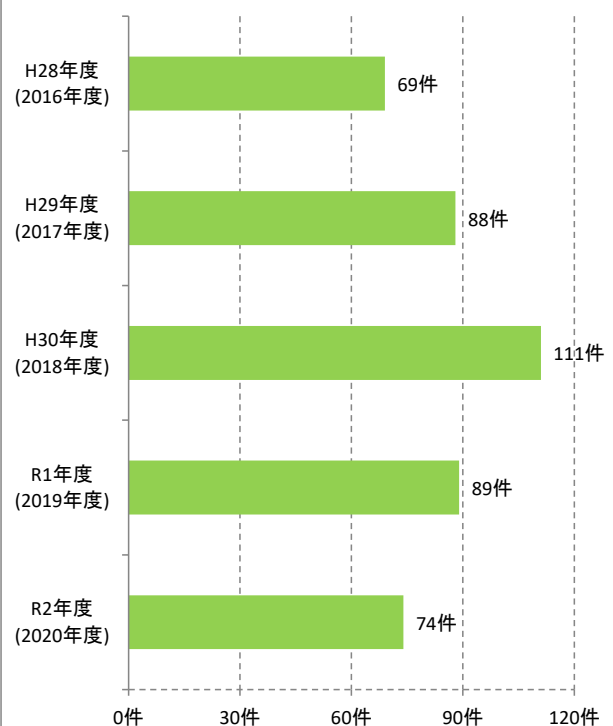
算式

延検査数
(気管支鏡検査のうち、
EBUS-TBNAを施行した数)

単位

件

超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA)



1. 一般的項目：入院して精査加療を行った糖尿病症例

▶ 項目の解説

糖尿病性ケトアシドーシスなど急性代謝失調の治療、術前血糖管理、糖尿病教育のために入院のにて加療している。

▶ 定義

入院加療を必要とした糖尿病症例数

コメント

コロナ禍での入院制限、外来でのインスリン導入や教育の充実で入院症例は減少しているが、外来での診療環境の充実が寄与していると考えられる。

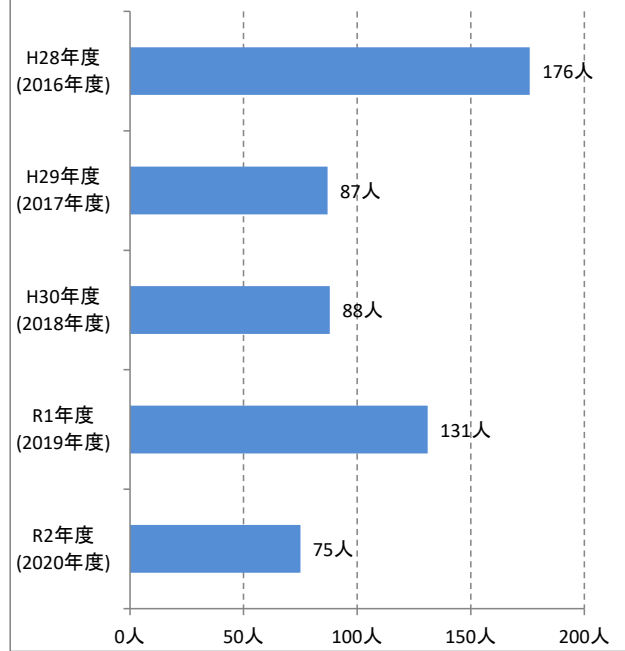
算式

1型糖尿病、2型糖尿病、
糖尿病を病名に有する
患者数を重複を避けて検
索

単位

人

入院して精査加療を行った糖尿病症例



2. 大学病院特有項目：下垂体疾患患者の内分泌学的評価

▶ 項目の解説

内分泌負荷試験を中心に、下垂体疾患の術前・術後の内分泌学的評価は短期入院で評価している。脳神経外科と診療連携により、スムーズな術前・術後の内分泌学的管理が行われている。

▶ 定義

入院精査を要した下垂体疾患入院患者数(2020年より外来患者を除外し入院患者のみ算定)

コメント

脳神経外科への下垂体疾患患者の増加に伴い、症例数は年々増加している。

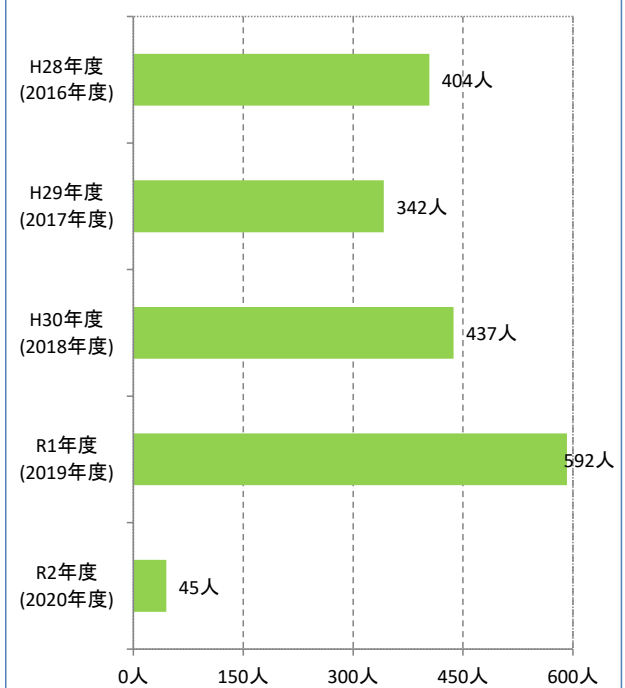
算式

下垂体、尿崩症、成長ホル
モン
などの下垂体関連病名を
有する患者数を重複を避けて
検索

単位

人

下垂体疾患患者の内分泌学的評価



1. 一般的項目： 年間の特定疾患の新規申請数

▶ 項目の解説

当科が担当する膠原病には、いわゆる特定疾患＝難治性疾患克服研究事業として厚生労働省が指定する疾患が多く含まれます。この疾患の当科における新規発症数を把握することができます。

▶ 定義

当科で該当疾患の臨床調査個人票を新規発行した件数です。

コメント

年度により変動はありますがある一定数以上を保っています。稀少疾患ながら何らかの疾患の鑑別疾患には常に挙げるべき存在であることがわかります。

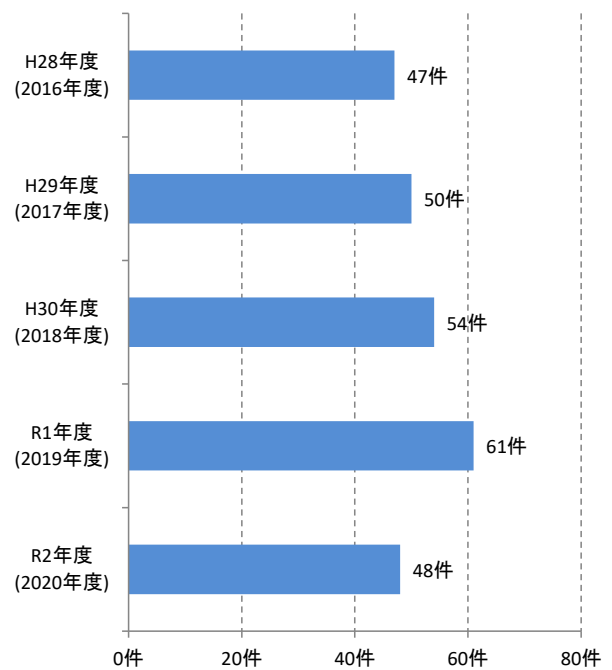
算式

件数

単位

件

年間の特定疾患の新規申請数



2. 大学病院特有項目： 不明熱患者における、診療の始まりから診断確定までの日数

▶ 項目の解説

当科では原因不明の発熱の原因検索を請け負うことが多く、診断までにかかる日数から、診断能力と診断機器の性能の向上の程度を推し量ることができます。

▶ 定義

入院日より診断確定までの日数です。
診断確定日とは、治療を開始した日か、原因不明のまま退院となった日のこととする。

コメント

日数は年度により変動があります。当該疾患毎の鑑別疾患の多寡さ、各種疾患の診断基準の見直し、新しい疾患概念の出現など、様々な要因が診断確定までの道程に反映されと考えます。

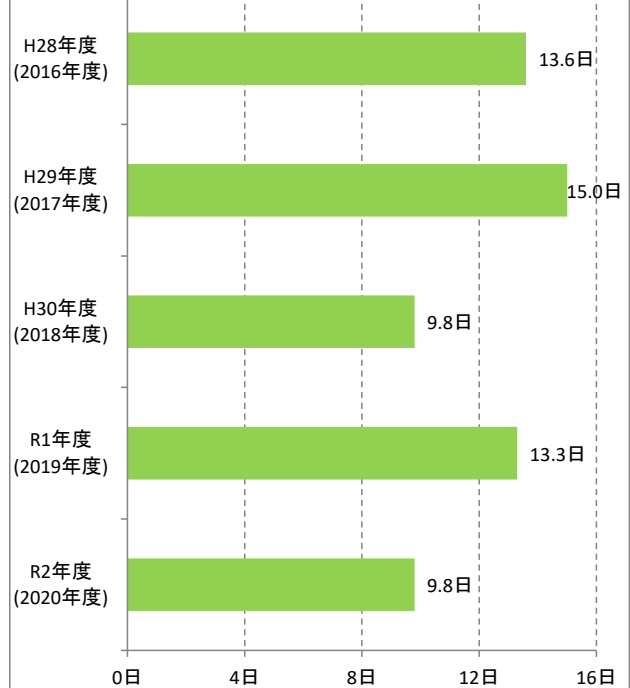
算式

日数

単位

日

不明熱患者における診療の始まりから
診断確定までの日数



消化器内科

※H28・29年度は光学医療診療部での実績含む。

1. 一般的項目： 上下部消化管内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

食道・胃・十二指腸および大腸に対する内視鏡検査です。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

悪性疾患から炎症性疾患まで幅広い内視鏡診療を行っております。治療を前提として狭帯域光観察(Narrow Band Imaging:NBI)、拡大内視鏡、超音波内視鏡なども行い、経験を生かした精度の高い精査を行っております。

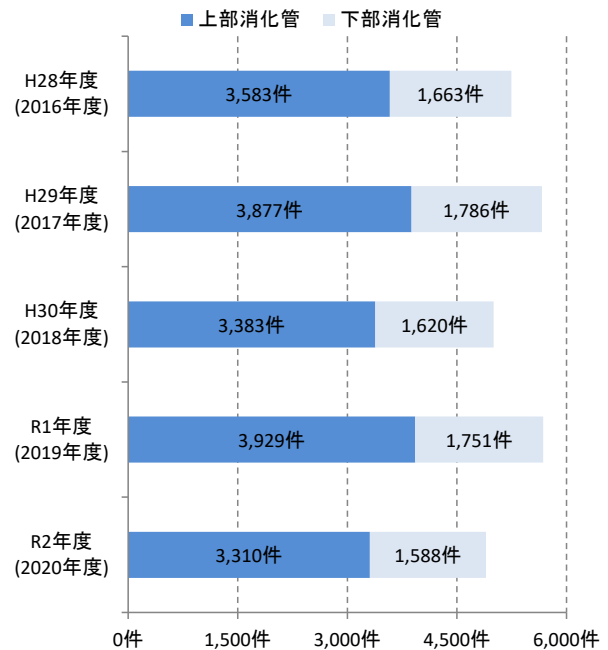
算式

延べ件数

単位

件

上下部消化管内視鏡検査件数



小腸内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

ダブルバルーン小腸内視鏡(DEB)とカプセル内視鏡(GE)を用いた小腸疾患の内視鏡検査です。これまでは外科手術が必要であった小腸出血や小腸腫瘍などの内視鏡的診断と治療が可能となり、患者さんの負担軽減につながります。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

ダブルバルーン小腸内視鏡は、一般的な内視鏡では診断・治療が困難である小腸疾患の内視鏡診断と治療が可能となります。また、術後再建腸管を有する患者さんの診断・治療にも有用です。

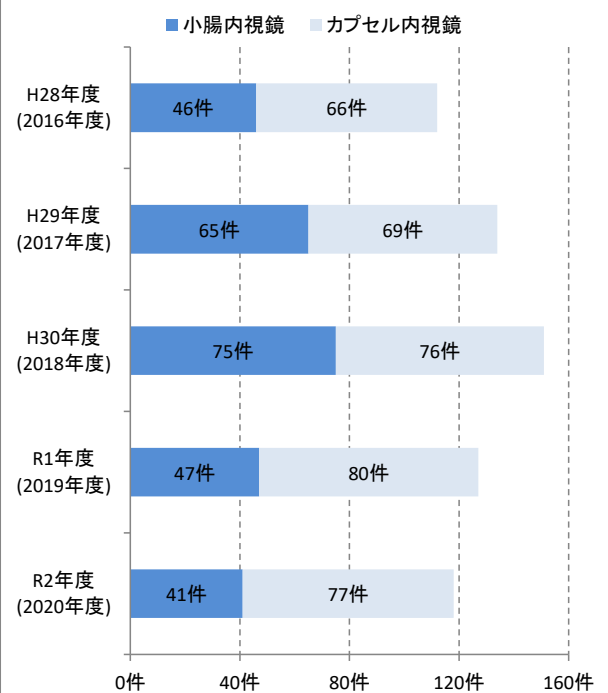
算式

延べ件数

単位

件

小腸内視鏡検査件数



腹部超音波検査件数

項目の解説

肝臓をはじめとする腹部臓器の状態把握目的に最初に行われることが多い画像診断です。腹部超音波検査は非侵襲性及び即時性に優れた検査です。一方で術者の技量により評価が左右される欠点も有します。しかし、当科に紹介されることが多い肝硬変や肝癌症例の状態把握に極めて有用です。この件数に肝疾患診療の体制や人員・設備などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

定義

肝臓内科医師がオーダーした年間の腹部超音波検査件数です。

コメント

総件数は減少傾向です。以前、当院では腹部超音波検査を行うにあたり、その多くは肝臓内科にコンサルトの上、施行されておりました。現在は肝臓内科を介さず、各診療科より直接、癌診療部腹部超音波検査へ依頼することが可能となりました。加えて胆膵系の疾患に関しては消化器内科の胆膵専門医師が、同検査を施行頂けるようになっております。これらの結果、当科医師を介した腹部超音波検査数は減少しましたが、より専門性の高い検査が可能となりました。

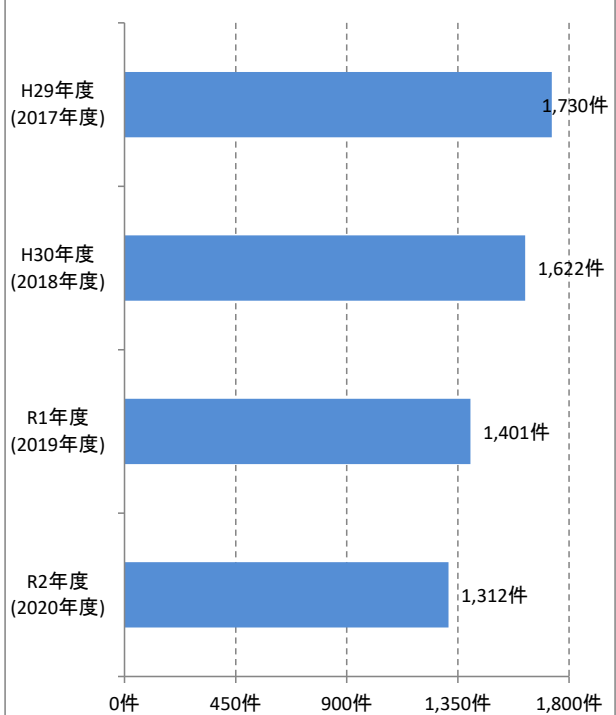
算式

自科生理検査832件
+
がん診療部腹部超音波検査
数、内肝臓内科569件

単位

件

腹部超音波検査件数



2. 大学病院特有項目:

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数

項目の解説

早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の施行件数です。リンパ節転移の可能性が極めて低い、粘膜内から粘膜下層浅層に留まる病変を、粘膜下層から剥離します。

定義

年間の治療件数です。

コメント

外科手術よりも患者さんにかかる負担が軽く、入院日数も短縮されますが、高度な技術を要する手技で県内では専門的に施行可能な施設は限定されています。

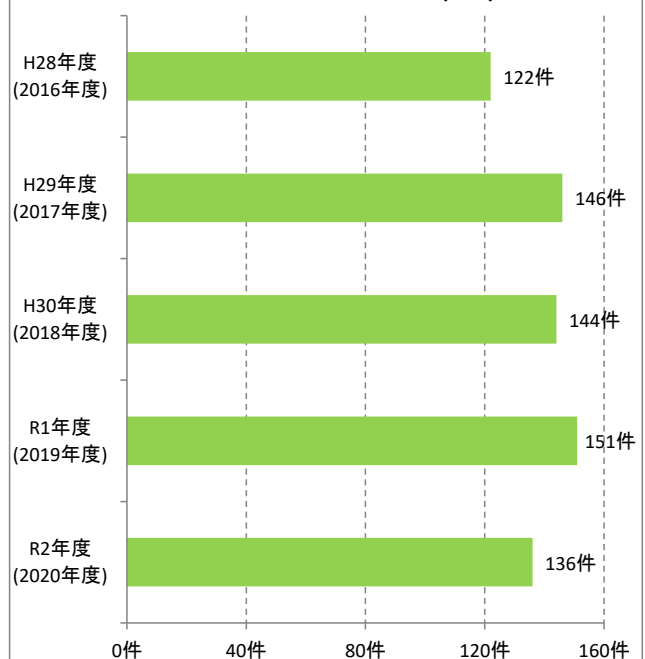
算式

延べ件数

単位

件

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数



2. 大学病院特有項目： 内視鏡的止血術

▶ 項目の解説

食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、すべての腸管からの出血に対し、内視鏡的に治療を行います。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

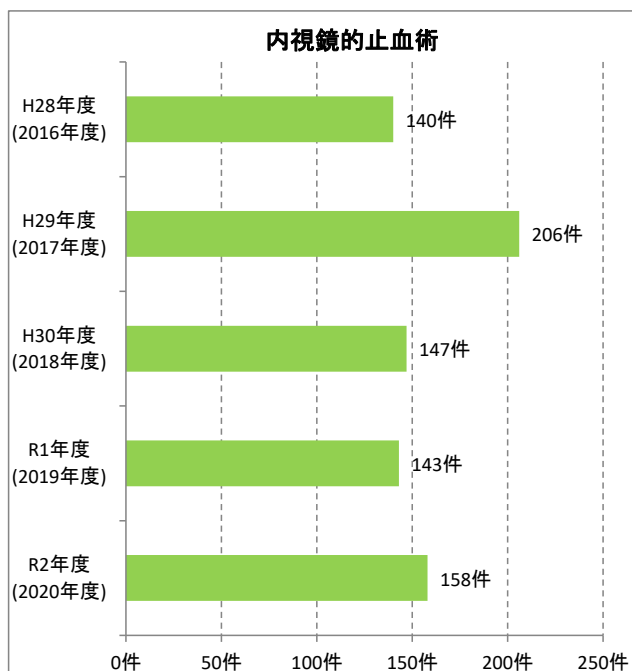
当院救命救急センターと協力して、日中夜間を問わず緊急で止血処置に対応しています。

算式

延べ件数

単位

件



内視鏡的大腸ポリープ切除

▶ 項目の解説

大腸ポリープに対する内視鏡的切除術の施行件数です。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

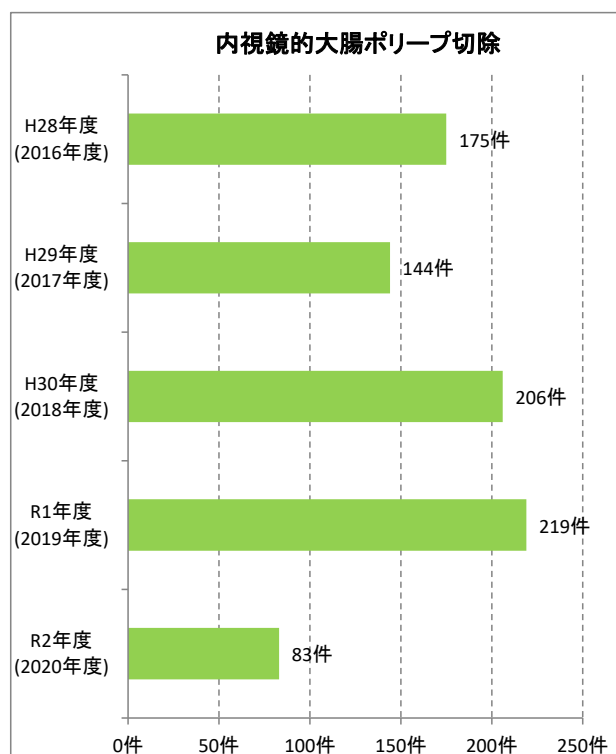
高齢化や抗血栓療法などの使用に伴い、一般病院で治療困難な症例が、年々増加傾向です。

算式

延べ件数

単位

件



超音波内視鏡(EUS)件数

項目の解説

超音波内視鏡(EUS)は胆膵疾患の精査目的に行われる検査です。細胞や組織の採取による病理学的確定診断(EUS-FNA)や各種ドレナージ(interventional EUS)を目的とした治療にも応用しています。ERCP不能例・不成功例に対しては積極的にinterventional EUSを施行しています。難易度が高く、重篤な偶発症が発生する可能性があります。したがって、限られた施設で行われていません。

定義

年間の検査件数です。

コメント

県内では専門的に施行可能な施設がありません。現在では診断的ERCPに代わって第一選択の精査法となっています。

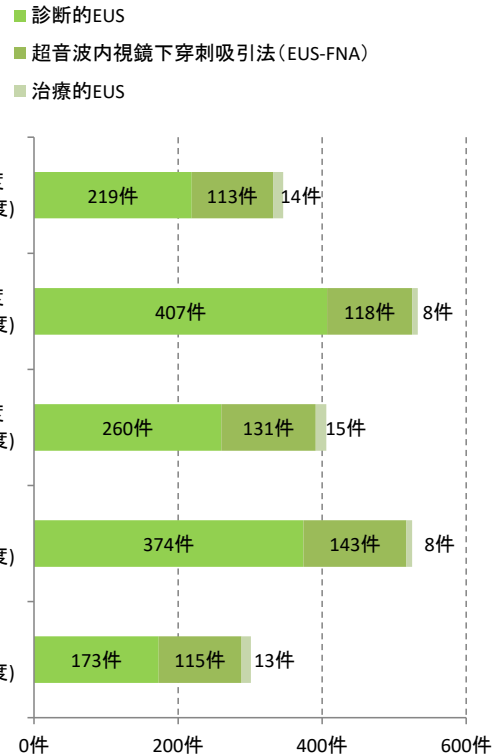
算式

延べ件数

単位

件

超音波内視鏡(EUS)件数



内視鏡的膵胆管造影(ERCP)

項目の解説

内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)は胆膵系疾患に対して行われる検査です。難易度が高く、重篤な合併症が発生する可能性もあります。したがって、限られた施設で行われていません。

定義

年間の件数です。

コメント

ERCPは年間200~300件で推移しています。以前と異なり、診断目的の検査件数は少なくなっています。現在では治療目的の施行が大部分を占めます。

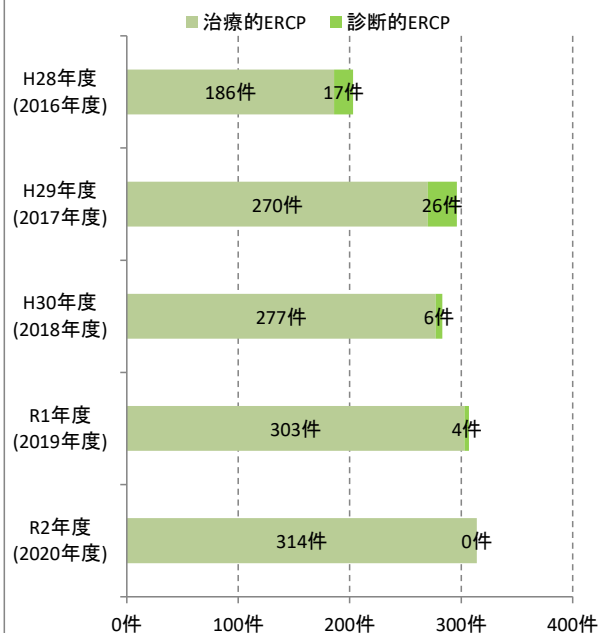
算式

延べ件数

単位

件

内視鏡的膵胆管造影(ERCP)



内視鏡的食道静脈瘤治療

▶ 項目の解説

食道静脈瘤に対する内視鏡的治療は、肝硬変という重篤な基礎疾患を有する症例群に対し施行せざるを得ないことから全身状態管理に加え、高度な内視鏡技術が必要となります。この為、県内でも施行施設は限られています。この件数に専門性の高い肝疾患診療の体制や人員などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

▶ 定義

年間の食道静脈瘤硬化療法と内視鏡的食道静脈瘤結紮術の合計数です。

コメント

宮崎県内で施行可能な施設が少なく、ほとんどが当院にて施行されている治療です。宮崎県における症例数が反映されており、例年通りの推移となっております。

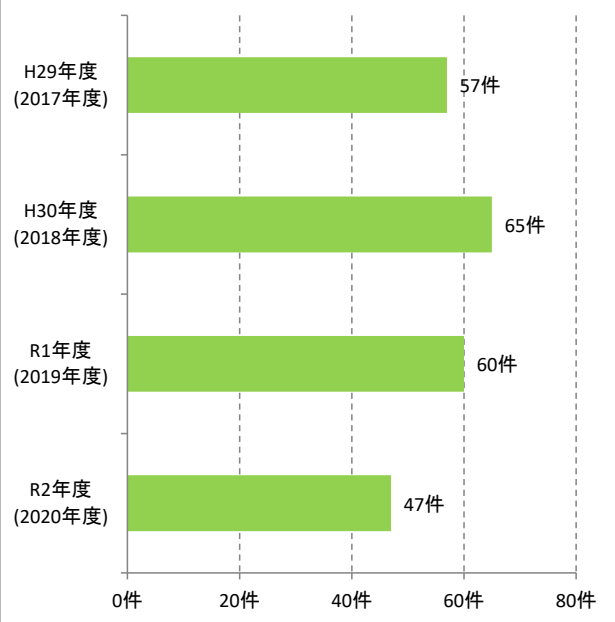
算式

内視鏡的硬化療法11件
＋
内視鏡的結紮術49件

単位

件

内視鏡的食道静脈瘤治療



精神科

1. 一般的項目:

統合失調症圏疾患(ICD-10:F2)の平均在院日数

▶ 項目の解説

近年、精神科医療における入院医療の短縮化が課題となっています。当院でも地域の訪問看護ステーションを利用するなど、地域との連携を積極的に図り、入院期間の短縮に努め、平均在院日数を経年的に追跡することで評価を行います。

▶ 定義

統合失調症・統合失調感情障害と診断された患者が対象(妄想性障害・急性一過性精神病性障害、せん妄は除外)です。年度初日から年度末日までに上記対象疾患の入院患者の入院日数の総和を入院患者数で除した日数をここでは平均在院日数としました。

コメント

変動はあるが、平均在院日数は短縮化する傾向にあり、今後もさらなる短縮に努力していきます。

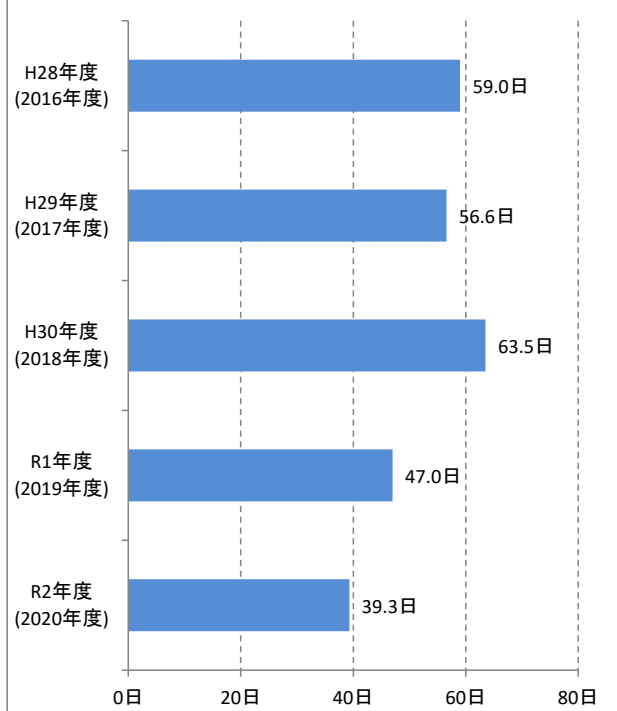
算式

平均在院日数

単位

日

統合失調症圏疾患(ICD-10:F2)の平均在院日数



2. 大学病院特有項目:

修正型電気けいれん療法の件数

▶ 項目の解説

修正型電気痙攣療法は、重症のうつ病や薬物療法に抵抗性のある統合失調症などの疾患に対する有効な治療法であるにもかかわらず、宮崎県では実施できる施設が限られています。技能の蓄積を実施経験数で評価します。

▶ 定義

年度内の施術数の総和です。1症例に対し10回施行した場合も、10症例に対し1回ずつ施行した場合も等しく10回と数えました。

コメント

毎年度、修正型電気痙攣療法は実施され、必要とされる実施技能は伝承されています。今後も経験数を重ね、より確かな治療実績を蓄積できるよう努めていきます。

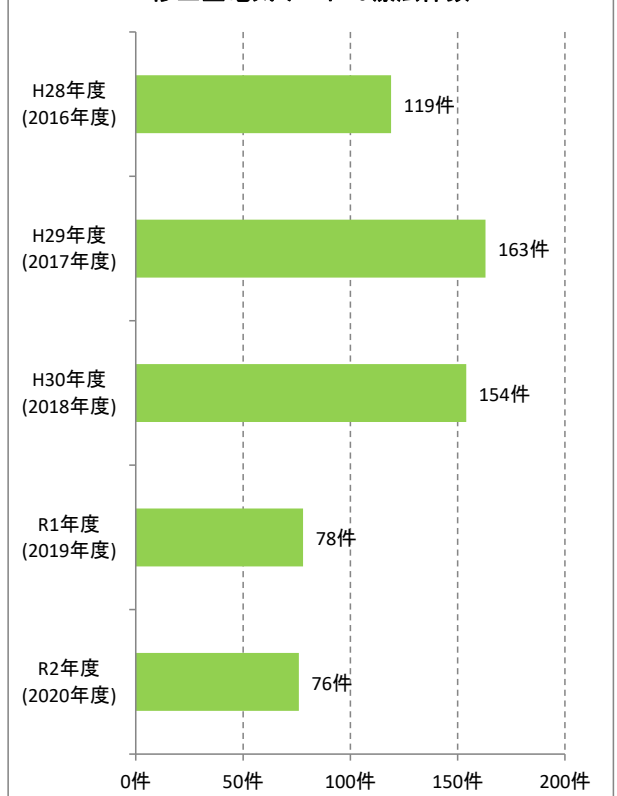
算式

延べ件数

単位

件

修正型電気けいれん療法件数



1. 一般的項目：腎生検数

▶ 項目の解説

学校検尿などで発見される尿所見異常や腎機能障害は、慢性糸球腎炎などの基礎疾患を有している場合があります。腎生検による組織診断と重傷度評価を行うことによって、適切な治療を選択することが可能となり、予後の改善につながります。

▶ 定義

年間の腎生検症例数です。

コメント

年20例程度の実施実績があり、宮崎県の小児腎疾患患者さんの早期発見、早期治療に努めています。

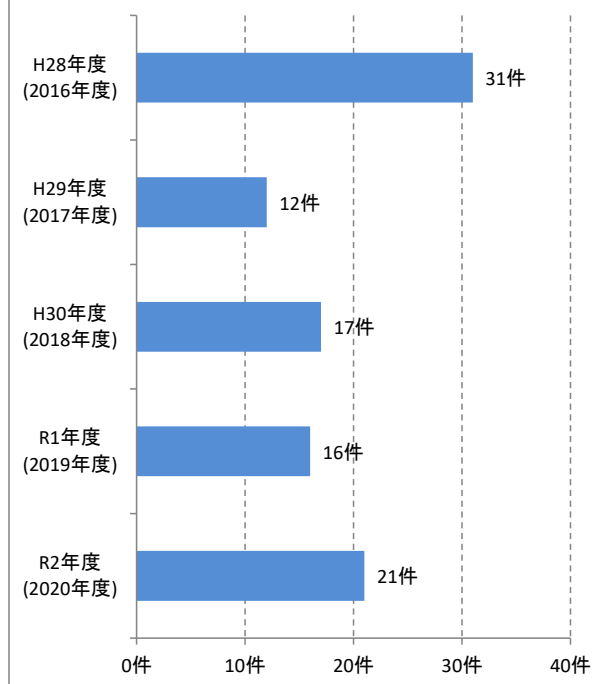
算式

実施数

単位

件

腎生検数



2. 大学病院特有項目：造血幹細胞移植

▶ 項目の解説

本移植を通して、通常の化学療法よりもより強度の治療を行うことにより、原疾患の治療成績が向上します。

▶ 定義

年間の移植実施回数です。

コメント

小児がんの治療成績向上に貢献しています。

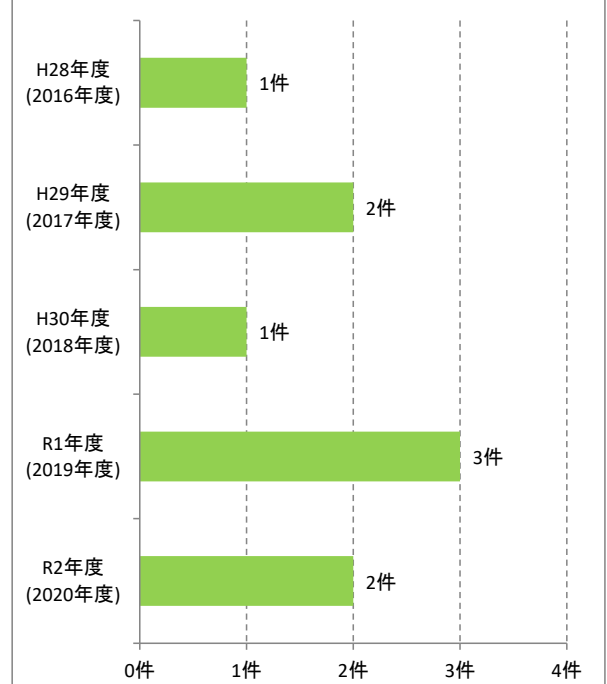
算式

実施回数

単位

回

造血幹細胞移植



腹膜透析患者数

▶ 項目の解説

末期腎不全に対する腎代替療法として、小児では腹膜透析が選択されます。

また、小児腎不全患者の場合、最終的には腎移植を行うことが望ましいと考えられ、腎移植までの期間の維持透析として腹膜透析を行っています。

▶ 定義

新規に腹膜透析を開始した患者数です。

コメント

小児末期腎不全患者に対して維持腹膜透析を行うことで生命予後の改善に貢献しています。

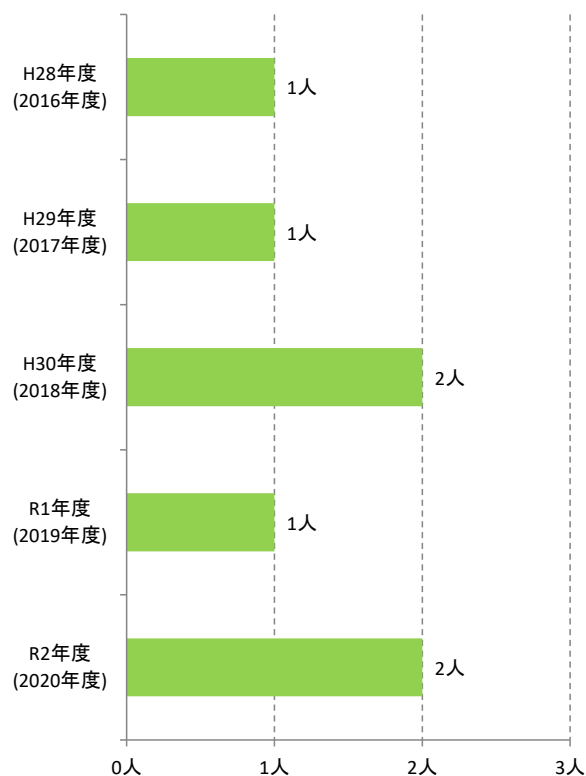
算式

新規患者数

単位

人

腹膜透析患者数



在宅人工呼吸管理

▶ 項目の解説

重症心身障害や神経難病などに由来する、最重度の呼吸障害を伴う患者さんが在宅で生活できるよう、在宅人工呼吸管理を行います。

▶ 定義

とくに重症度が高い、気管切開孔を介した陽圧式人工管理を施行した在宅療養患者の年間総数

コメント

かつては退院困難だった患者さんたちが、ご自宅で過ごせるようになってきました。

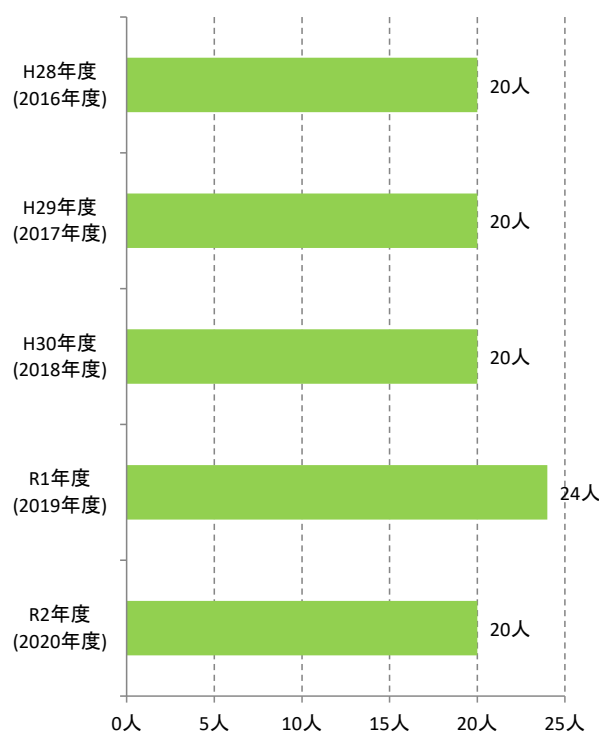
算式

総患者数

単位

人

在宅人工呼吸管理



1. 一般的項目： 肝胆膵高難度手術件数

▶ 項目の解説

肝胆膵領域において難度の高い手術が多くあり、これらの術式は日本肝胆膵外科学会により高難度肝胆膵外科手術として指定されています。

これらを多く行っている施設はhigh volume centerであり、術後合併症が少ないと言われ、また肝胆膵外科医の教育施設としても貢献でき、アクティビティーの高い施設と言えます。

▶ 定義

日本肝胆膵外科学会により指定されている高難度肝胆膵外科手術の手術件数

コメント

年間50例以上が行われており、これにより当施設は宮崎県で唯一の日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設(A)に認定されています。

今後も件数が増加または維持されることが期待されます。

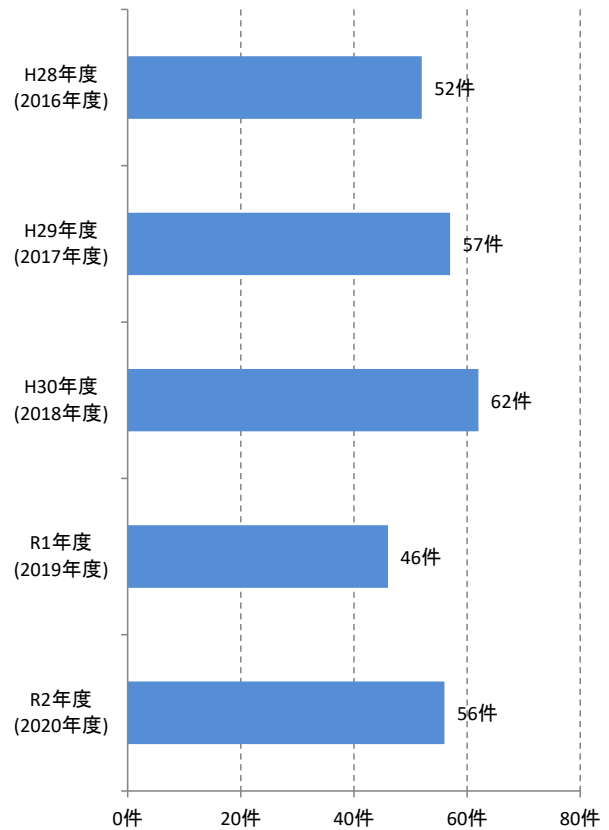
算式

延べ手術件数

単位

件

肝胆膵高難度手術件数



2. 大学病院特有項目： 消化管腹腔鏡手術件数

▶ 項目の解説

腹腔鏡下手術は、従来の開腹手術に比べ患者への侵襲が少なく美容上も良好です。

腹腔鏡下手術における技術や器具の進歩により、消化管疾患に対して安全性や根治性を損なわず腹腔鏡下手術が可能となりつつあります。

消化管腹腔鏡手術件数が多いことは、最新の治療手段により患者にやさしい治療が多く行われることを意味し、病院のアクティビティを示すこととなります。

▶ 定義

腹腔鏡または胸腔鏡を用いて行われた消化管の手術件数

コメント

年間50~100例に行われており、今後増加することが期待される。

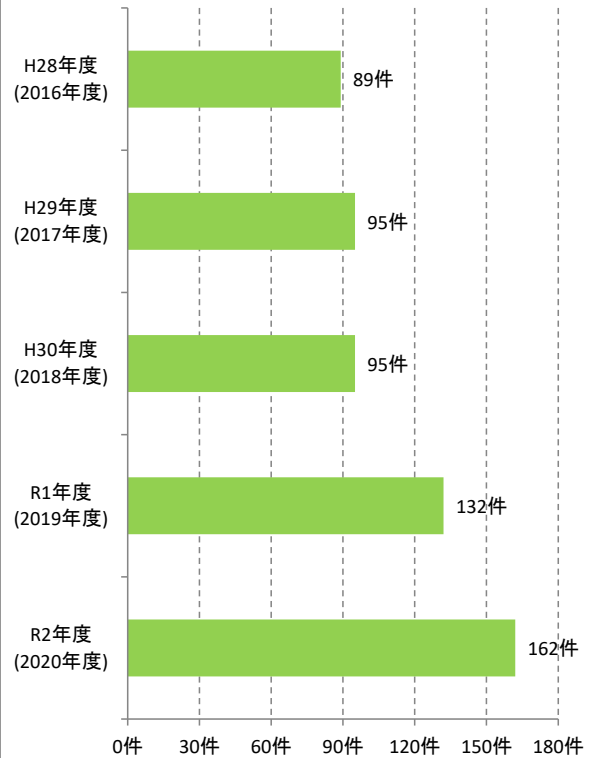
算式

延べ手術件数

単位

件

消化管腹腔鏡手術件数



心臓血管外科

1. 一般的項目:

心臓胸部大血管外科手術症例数

▶ 項目の解説

心臓疾患の外科治療は通常、人工心肺という特殊な補助手段が使用されますが、最近では人工心肺を用いない冠動脈バイパス術や経カテーテル的大動脈弁置換術なども可能ともなってきました。

心臓手術には高度のチームワークが必要であり、難度の高い手術が大学病院で行われます。

▶ 定義

年間の心臓胸部大血管外科手術数

コメント

経カテーテル的弁置換術などの低侵襲治療も行っています。今後は透析などの併存疾患を抱えた患者様への治療が増えることが予想される一方で、小さな皮膚切開での手術を行っていきます。

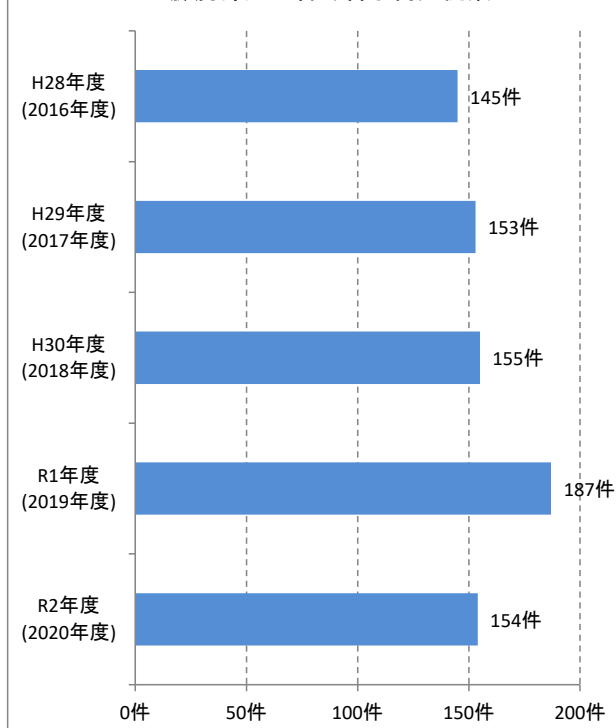
算式

延べ手術件数

単位

件

心臓胸部大血管外科手術症例数



2. 大学病院特有項目:

ステントグラフト挿入術件数

▶ 項目の解説

かつては大動脈瘤の治療は開胸や開腹を必要とし、かつ胸部大動脈瘤は人工心肺を用いなければ手術不可能でありました。しかしながらステントグラフトの開発により、開胸や開腹の必要のない方法で治療が可能となりました。

▶ 定義

年間の胸部及び腹部大動脈ステントグラフト挿入術数

コメント

低侵襲治療の一環であるステントグラフト挿入術は今後増加することが期待されます。

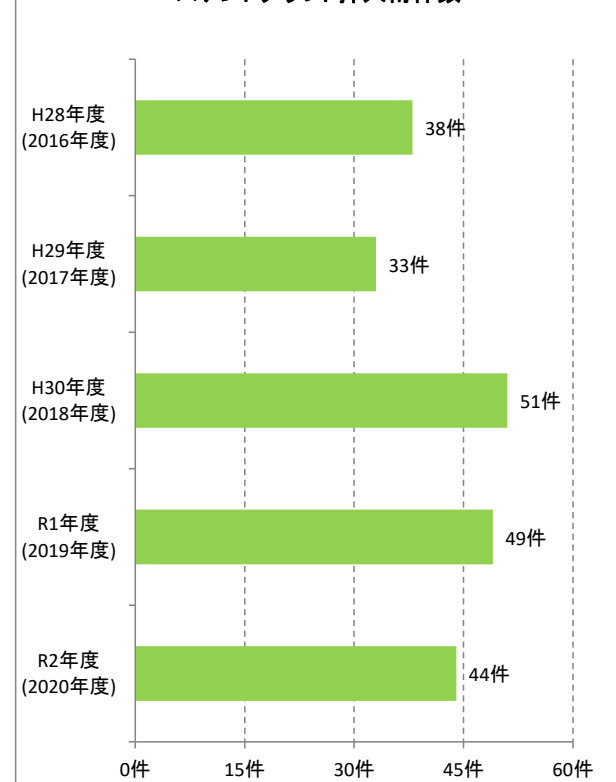
算式

延べ手術件数

単位

件

ステントグラフト挿入術件数



1. 一般的項目：肺悪性腫瘍手術件数

▶ 項目の解説

肺がんの手術法は近年大きな進歩を遂げています。最近は胸腔鏡を用いた体にやさしい低侵襲手術が主流です。現在ロボット支援手術も取り入れています。

▶ 定義

年間の肺悪性腫瘍手術数

コメント

年間の手術件数です。

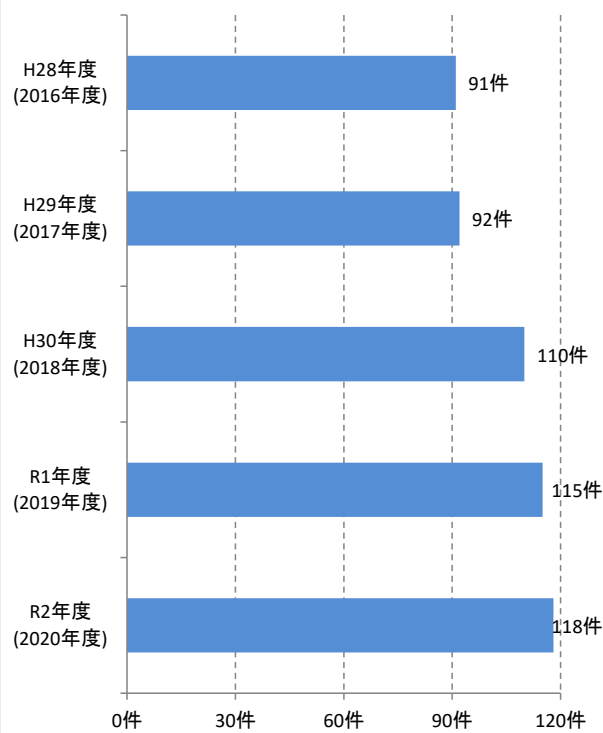
算式

延べ手術件数

単位

件

肺悪性腫瘍手術件数



1. 一般的項目: 遊離複合組織移植手術(骨移植)

▶ 項目の解説

以前の下顎骨・上顎骨再建は人工物を使用した再建が多数を占めていましたが、感染症例では人工物の抜去を余儀なくされてきました。最近では、手術手技の進歩により自家骨移植が比較的簡便に行えるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、増加傾向にあります。

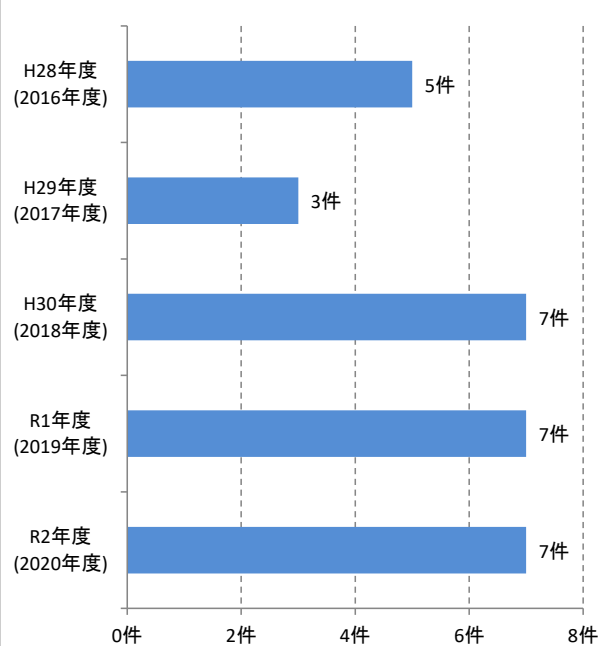
算式

延べ手術件数

単位

件

遊離複合組織移植手術(骨移植)



1. 一般的項目: 乳房再建術(自家組織)

▶ 項目の解説

当院は2018年から人工物による1次2次再建の施設認定を受け、人工物による乳房再建が可能となりましたが、自家組織による再建も行なっております。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

今後増加が見込まれます。

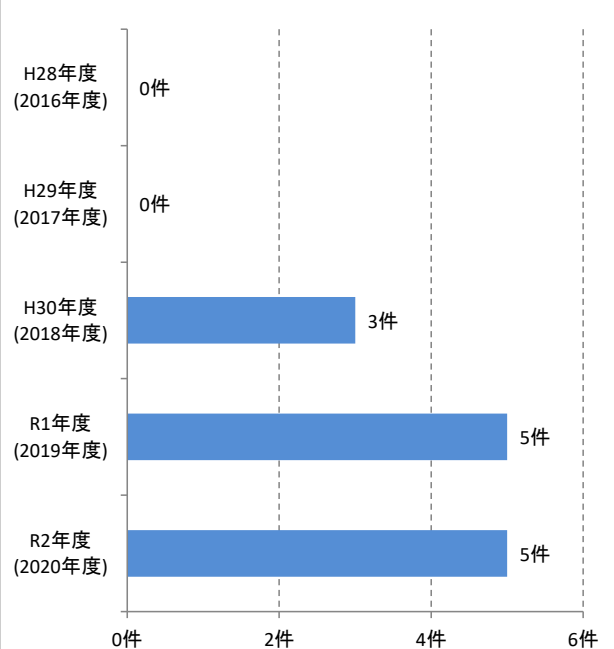
算式

延べ手術件数

単位

件

乳房再建術(自家組織)



2. 大学病院特有項目： 乳房再建術(インプラント)

▶ 項目の解説

2014年から人工物(エキスパンダー、インプラント)による乳房再建が保険診療で行うことが可能となりました。当院は2018年から人工物による1次2次再建の施設認定を受け、人工物による乳房再建が可能となりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

今後増加が見込まれます。

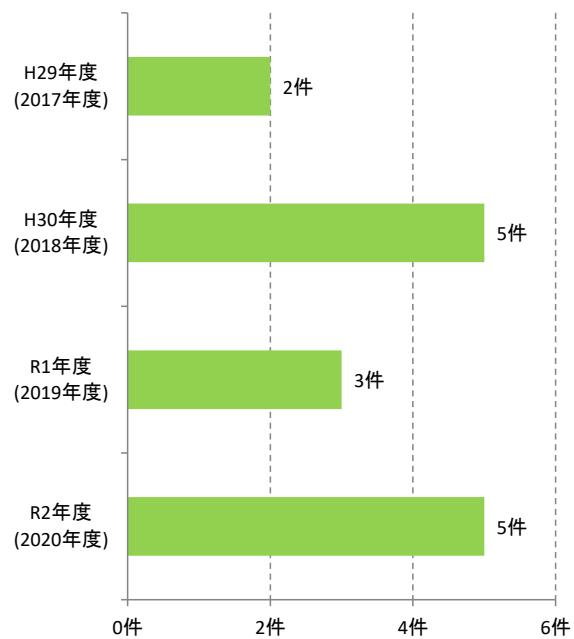
算式

延べ手術件数

単位

件

乳房再建術(インプラント)



整形外科

1. 一般的項目： 外来患者数

▶ 項目の解説

整形外科(運動器)疾患は多種多様にわたっており、本院は地方の特定機能病院として全ての疾患に対応する必要があると考えています。

外来患者数を評価し、さらには疾患ごとの患者数などを検討することで全体的評価や特徴を検討する必要があります。

▶ 定義

年間の外来患者数

コメント

平成22年5月から外来棟が新設され診察室が増加し、一度に診察できる患者数を増加させることが可能になりました。
また、プライバシーへの配慮や待ち時間を減らすことなど患者サービスにも貢献できるようになっています。

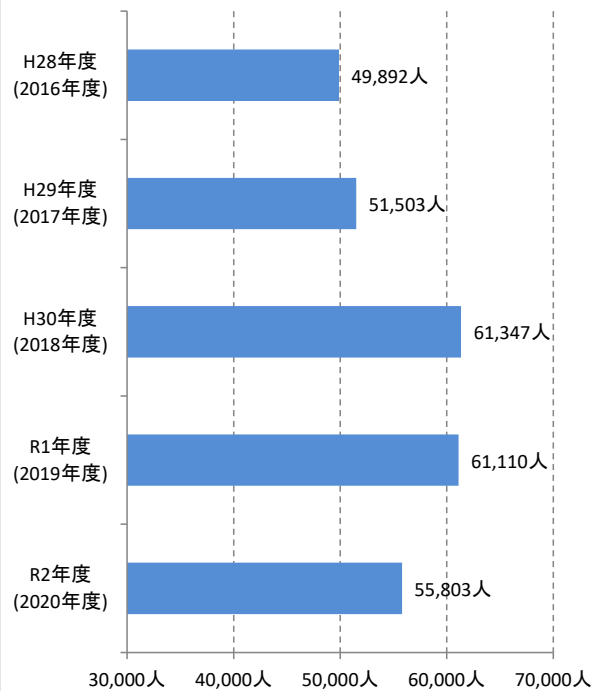
算式

延べ患者数

単位

人

外来患者数



入院患者数

▶ 項目の解説

入院患者数は、入院期間の短縮を心がけていますが、紹介患者の増加により待機患者の入院待ちが半年程度となっています。
大学病院では重症疾患を多く扱っていますが、診療システムを連携することで効率的な入院運営を行いそのことを評価します。

▶ 定義

年間の入院患者数

コメント

以前のベッド数から増加し、共通病床の利用や救命救急センターの開設もあり、また各科との連携のお陰で入院待機患者数を増やさないようにしています。

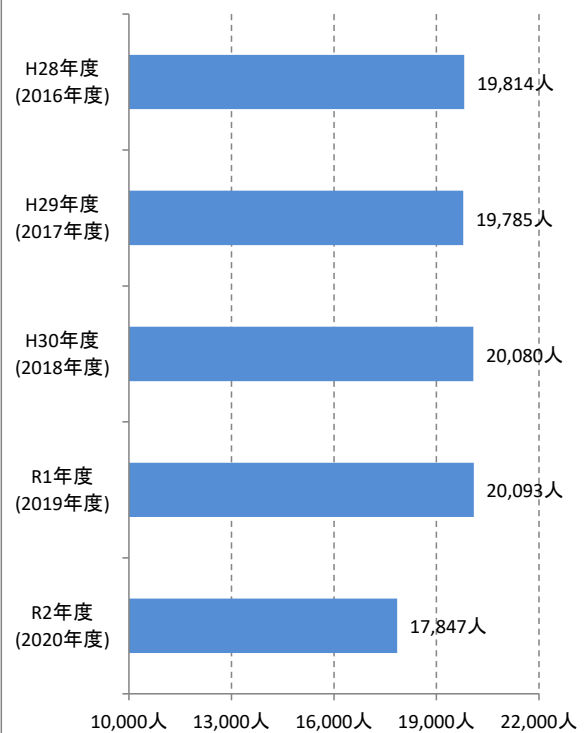
算式

延べ患者数

単位

人

入院患者数



手術件数

▶ 項目の解説

地方の特定機能病院として、様々な疾患に対する手術を実施することが必要不可欠と考えており、手術件数と術式などを検討する。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

平成20年に手術室を増設後、手術件数は増加しています。救急患者の手術件数も増加しており対応できる体制を構築する。

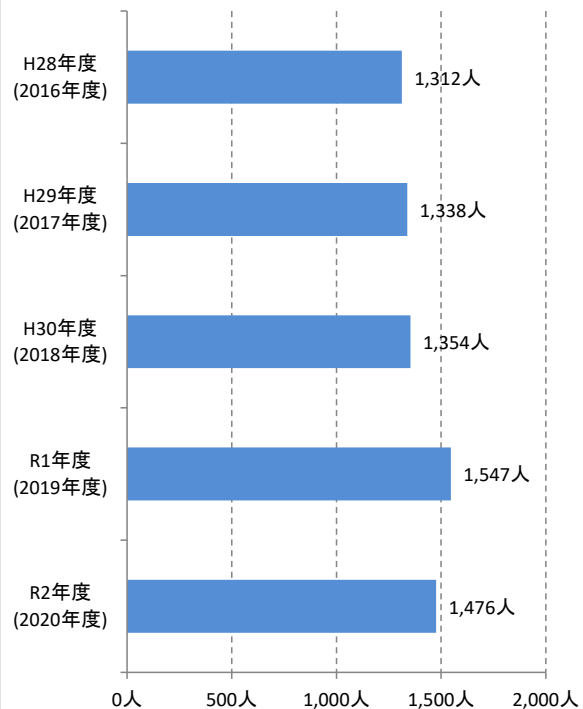
算式

延べ患者数

単位

人

手術件数



2. 大学病院特有項目:

体外衝撃波疼痛治療件数

▶ 項目の解説

体外衝撃波疼痛治療装置を、難治性の足底腱膜炎を中心とした疼痛性疾患に用いた診療を行っています。

本装置は、平成23年12月に難治性の足底腱膜炎に対して保険収載されており、国内での実施件数も少ない状況です。

また、その他の疼痛性疾患に対する治療としては倫理委員会に今後申請する予定であり、本院特有の治療法で今後が期待されています。

▶ 定義

疾患ごとの実施件数

コメント

本院では足底腱膜炎が保険収載される前から治療を実施しており、スポーツ選手をはじめ疼痛で困られている患者さんへの新しい治療方法としての実績をあげています。

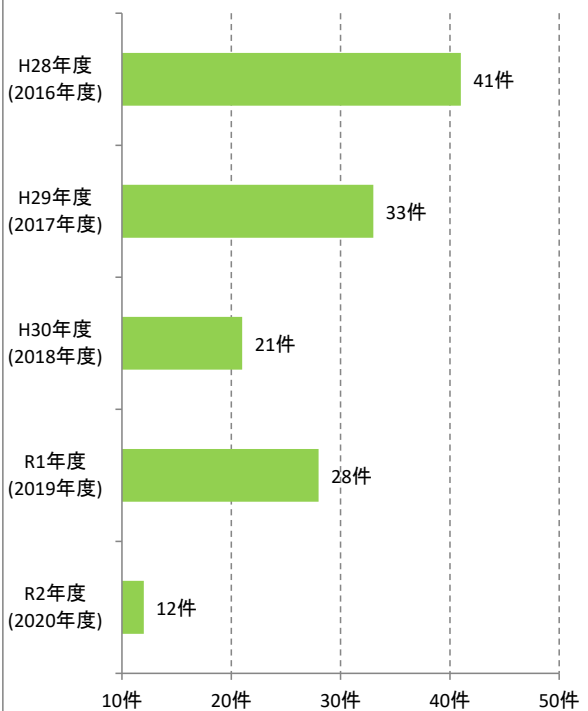
算式

実施件数

単位

件

体外衝撃波疼痛治療件数



2. 大学病院特有項目： 自家培養軟骨移植術件数

▶項目の解説

整形外科的再生医療として自家培養軟骨移植術を膝関節軟骨損傷症例に対し実施しています。

本治療法は、2012年7月に外傷性軟骨欠損症もしくは離断性骨軟骨炎に対して保険収載されております。

損傷・欠損した関節軟骨の治療法で今後が期待されています。

▶定義

疾患ごとの実施件数

コメント

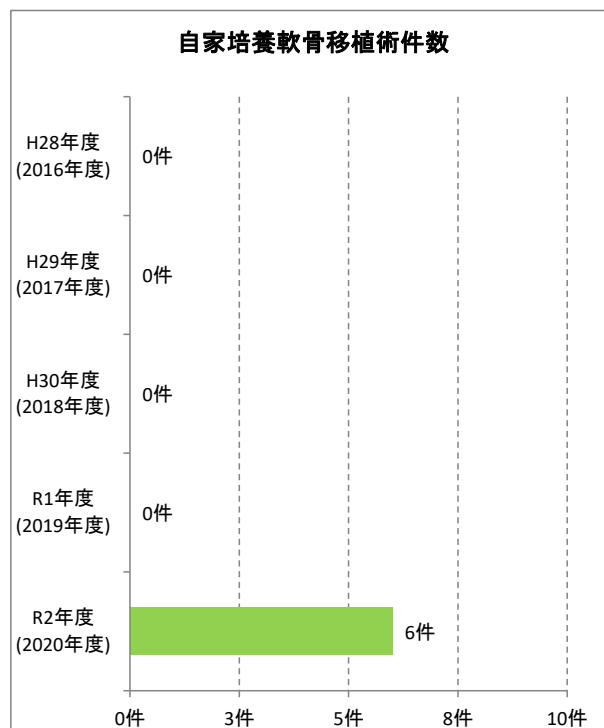
当治療法は実施施設基準や手術実績を満たす施設でのみ承認されており、実施医の研修も必須となります。交通事故やスポーツなどによる軟骨損傷に対する有効な治療手段です。

算式

実施件数

単位

件



皮膚科

1. 一般的項目： 皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)

▶ 項目の解説

皮膚悪性腫瘍は外科的治療を中心に、化学療法、放射線治療をそれぞれのケースに併せて行っております。

▶ 定義

年間の皮膚悪性腫瘍の入院患者数です。

コメント

集学的な治療を中心に入院加療を行っております。

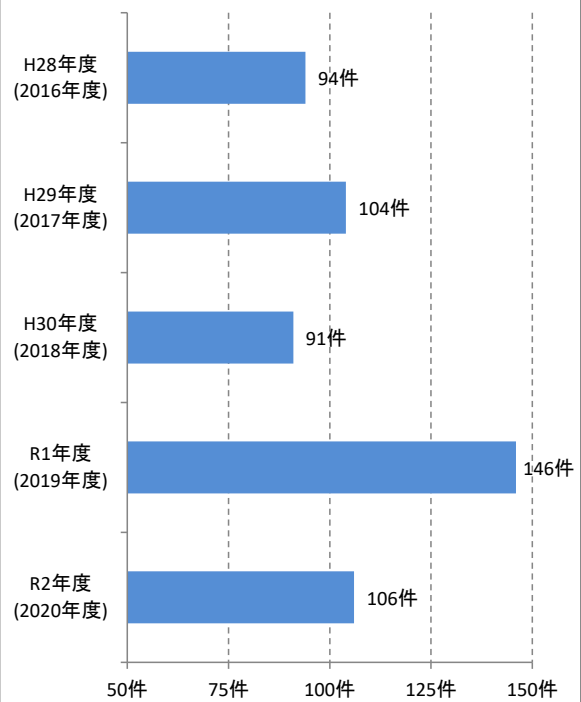
算式

延べ件数

単位

件

皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)



2. 大学病院特有項目： 悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数

▶ 項目の解説

悪性腫瘍のリンパ節転移の評価のためにセンチネルリンパ節生検を行っております。

▶ 定義

放射線RIを使用して行った症例数です。

コメント

病期(stage)を評価するのに重要な役割を果たします。

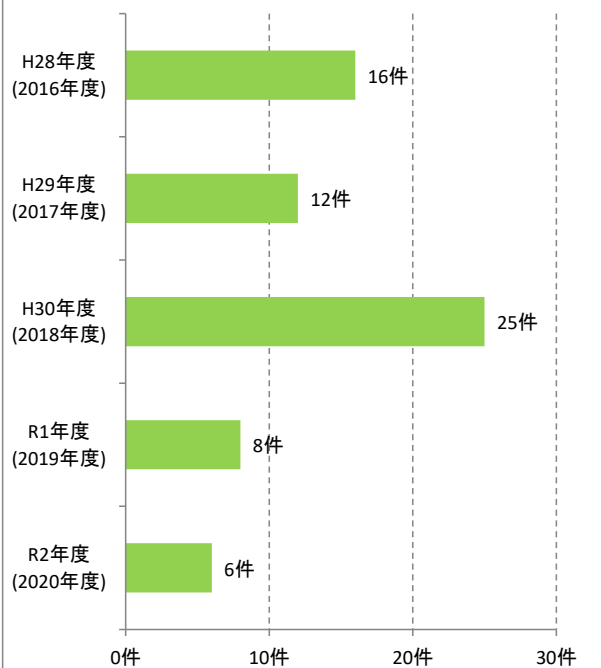
算式

延べ件数

単位

件

悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数



泌尿器科

1. 一般的項目： 腎臓および副腎の腹腔鏡手術（症例数）

▶ 項目の解説

腎臓および副腎は、後腹膜臓器のため腹腔鏡以前はかなり大きな切開創が必要であったが、腹腔鏡手術にて低侵襲となり、術後疼痛緩和、入院期間の短縮が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

手術件数のためばらつきはありますが、最近はやears間50例以上施行しています。

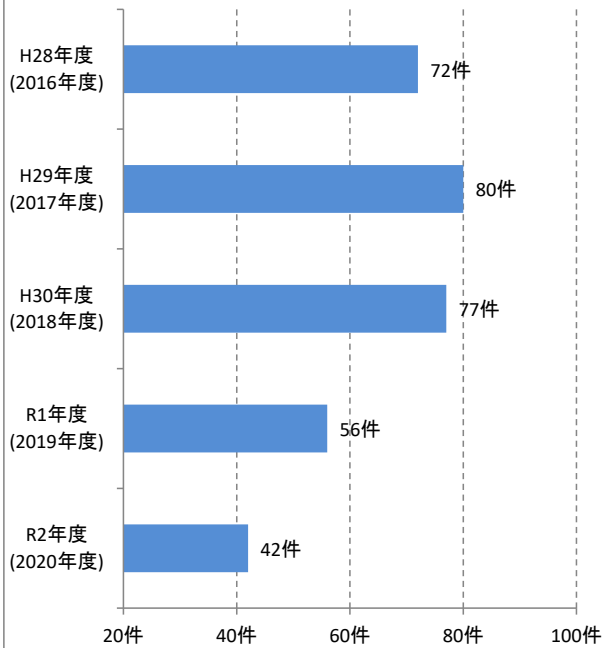
算式

件数

単位

件

腎臓および副腎の腹腔鏡手術
（症例数）



2. 大学病院特有項目： 前立腺癌の腹腔鏡手術（症例数）

▶ 項目の解説

2019年10月より内視鏡手術支援ロボット（da Vinci）を導入しました。従来の腹腔鏡手術は直線的鉗子の動きしかできませんが、da Vinciで用いられているロボットアームは人間の手より可動域が広くより繊細な動きが可能となります。それにより手術の質の向上と合併症のリスク低減が望めます。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、最近はやears間30例以上は施行しています。

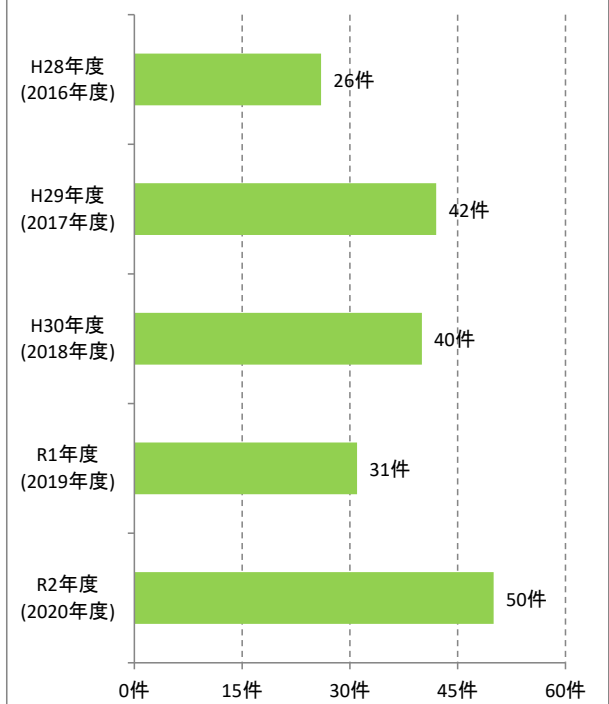
算式

件数

単位

件

前立腺癌の腹腔鏡手術
（症例数）



膀胱癌の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

前立腺や陰周囲には静脈叢が発達しているため、摘出の際、出血が多くなる場合もありましたが、腹腔鏡手術による気腹にて、出血を最小限に抑えることが可能となりました。また尿路変向で使用する腸管の創外に脱出しないため、浮腫が軽減できました。また術後疼痛緩和が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、最近では年間10例以上は施行しています。

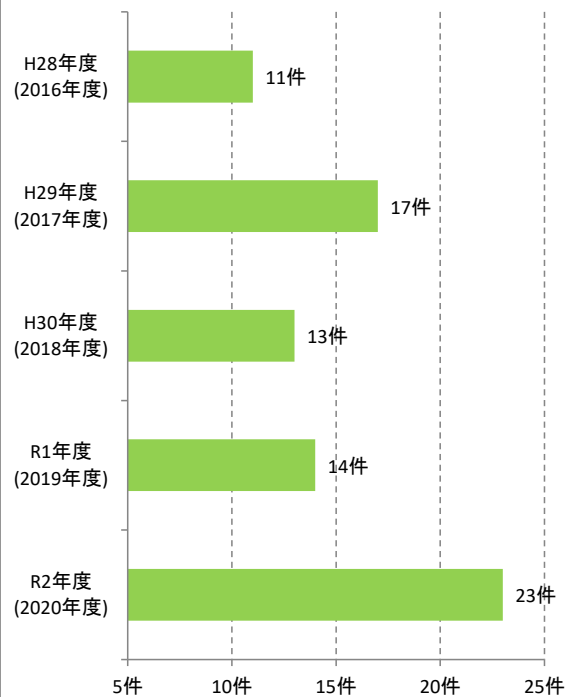
算式

件数

単位

件

膀胱癌の腹腔鏡手術
(症例数)



眼科

1. 一般的項目：

全手術件数(前房内注射、硝子体注入を除く)

▶ 項目の解説

小切開での網膜硝子体手術から小児の斜視手術まで多岐にわたる眼疾患の手術を行っており、眼科領域のほぼすべてを網羅しています。緊急手術の対応や全身管理が必要な患者さん、近医での手術が困難な難症例にも対応しており、その実績を数値で評価します。

▶ 定義

1年間の当科での手術件数です。

コメント

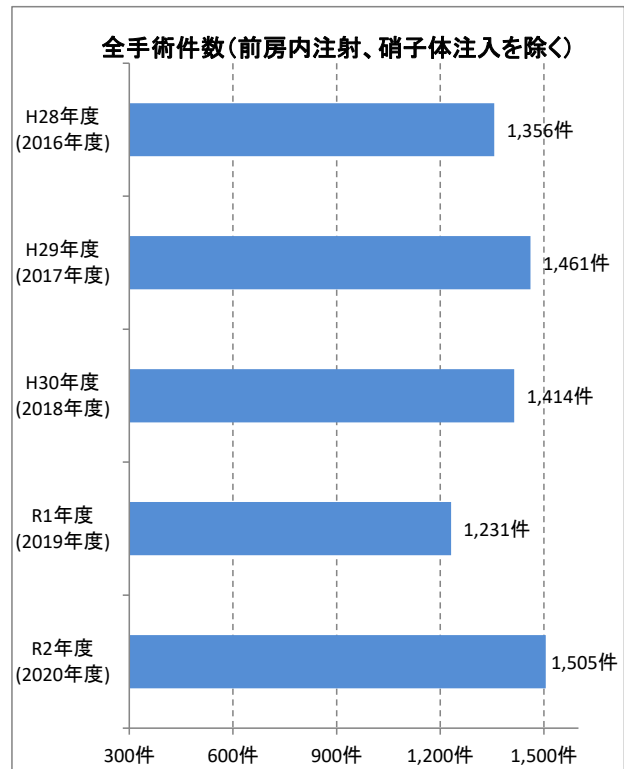
症例数は年々増加傾向であり、さらに難易度の高い手術も増えています。患者数の増加に伴い、短期入院での手術も増加しました。

算式

1年間の手術件数
(前房内注射、
硝子体注入を除く)

単位

件



2. 大学病院特有項目：

術後眼内炎発生率

▶ 項目の解説

感染により手術後に生じる眼内炎は、視機能を著しく低下させる重大な合併症の一つです。眼内炎の発症予防に十分注意することで、良好な手術成績を保つことができるため、その実績を評価します。

▶ 定義

1年間当科での手術患者で眼内炎を発症した割合です。

コメント

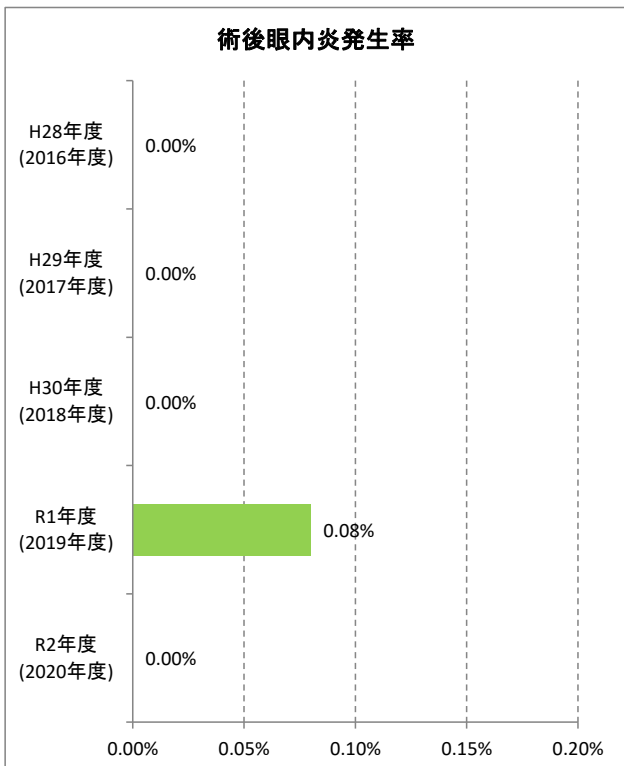
合併症である眼内炎はほぼ発生しておらず、良好な手術環境、創部の管理が成果を上げています。

算式

分子：1年間の眼内炎発生数
分母：1年間の全手術数

単位

%



1. 一般的項目:

耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)

▶ 項目の解説

鼓室形成術は耳鼻咽喉科機能手術の中でも代表的なもので、2017年までは週刊朝日MOOKでも全国ランキングの一項目として掲載されていました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

週刊朝日MOOKIによると当院の全国ランキング2017年版で5位となっており、宣伝効果も高いと思われます。

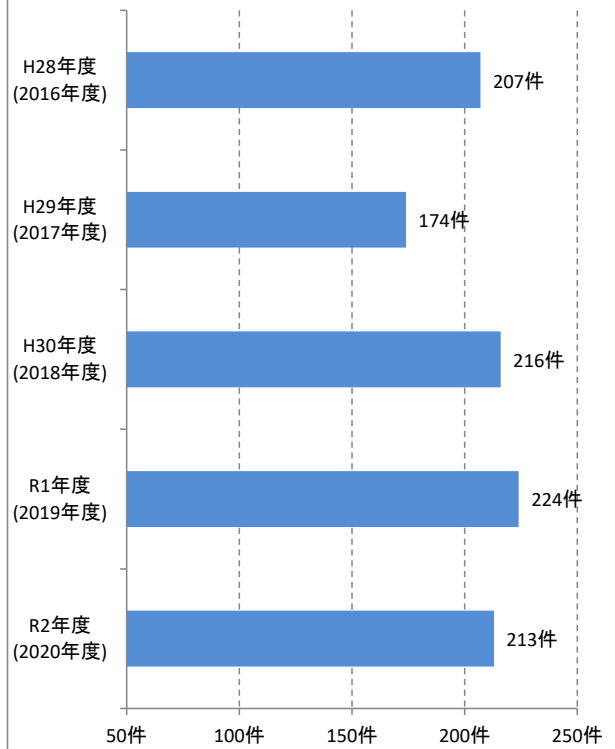
算式

延べ患者数

単位

件

耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)



2. 大学病院特有項目:

頭頸部腫瘍手術

▶ 項目の解説

頭頸部腫瘍の根治的切除、機能的・整容的再建を含む手術を行っています。

▶ 定義

手術件数です。

コメント

がん拠点病院として頭頸部がん治療の中心的役割を担っていることが分かります。

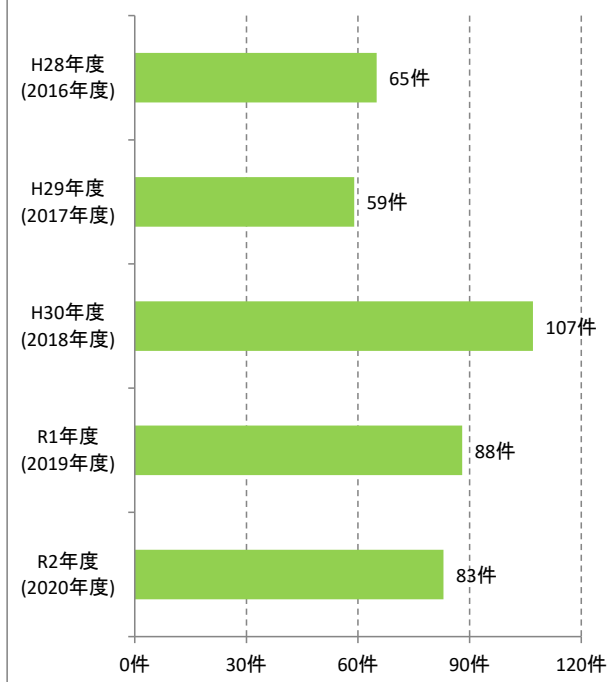
算式

延べ患者数

単位

件

頭頸部腫瘍手術



1. 一般的項目： 婦人科腫瘍(0期を除く)初回治療件数

▶ 項目の解説

宮崎県がん拠点病院として、大学病院産婦人科での婦人科腫瘍の総数を示します。

婦人科がんには、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などがあります。

初回治療として手術、放射線療法、化学療法などがあり、集学的に婦人科腫瘍を治療するための多診療科間協力と、看護師、薬剤師、診療放射線技師などとの共同が必要です。この数値は、大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などの初回治療の総数を示します。

コメント

多少の波はあるものの、全体として一定～増加傾向にあります。

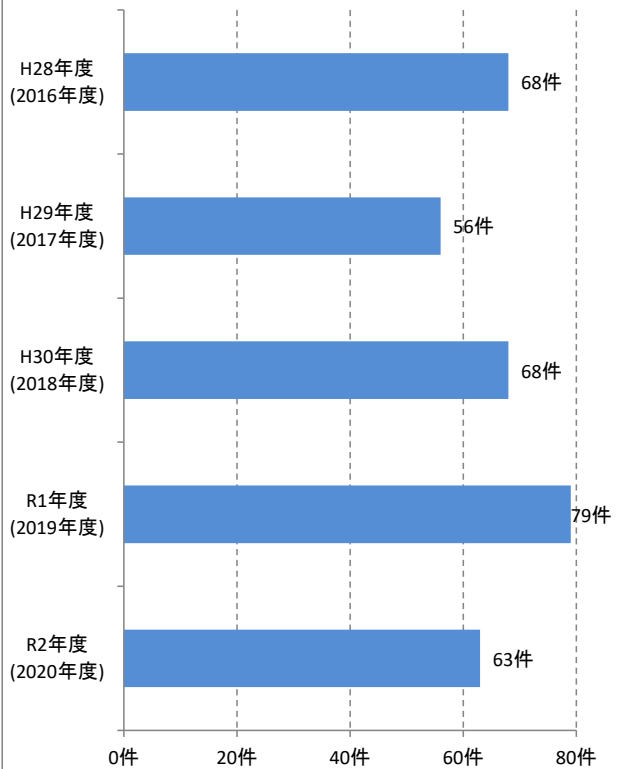
算式

初回治療件数
(治療者)数

単位

件

婦人科腫瘍(0期を除く)初回治療件数



2. 大学病院特有項目： 早産(28週未満)の母子管理数

▶ 項目の解説

周産期医療の中でも28週未満の早産児の予後は不良です。そこで、28週未満、1000g未満の超低出生体重児は第3次医療施設である大学病院での集学的管理が重要で、小児外科、小児循環器、脳外科、眼科、耳鼻科などの多診療科の協力が重要です。この数値は、周産期医療を専門的に取り組む大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

母体-胎児-新生児をひとつのユニットとして数えます。(通常は母体数)

コメント

早産の総数は減少していないが、その中の超早産数(28週未満)は減少の傾向を示しています。その大部分は大学病院で管理されています。

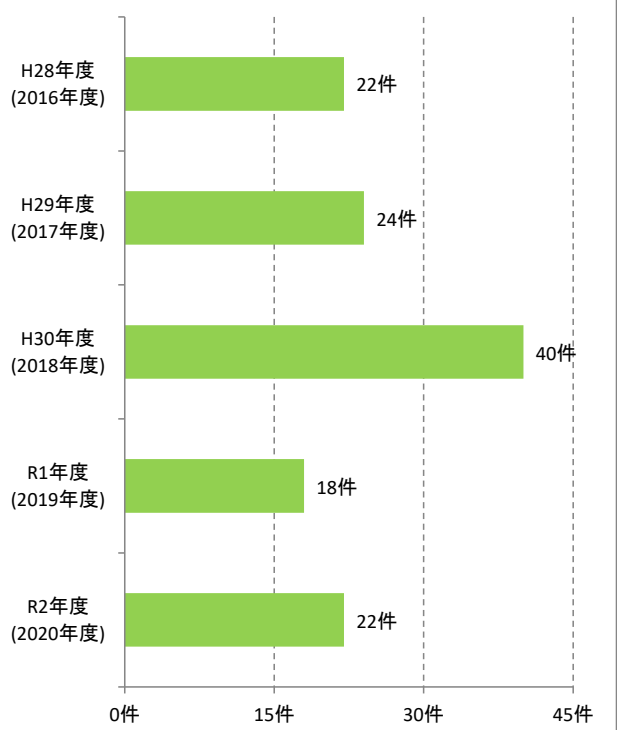
算式

在胎28週未満の
超早産の管理数

単位

件

早産(28週未満)の母子管理数



1. 一般的項目:

PETの件数

▶ 項目の解説

PET/CT検査は大学病院における高度のがん診療に欠かせない診断方法です。

▶ 定義

件／年

コメント

検査件数としては減少傾向ですが、これは検査の適応の変化に伴うものであり、癌診療に貢献していることには変わりなりと考えます。

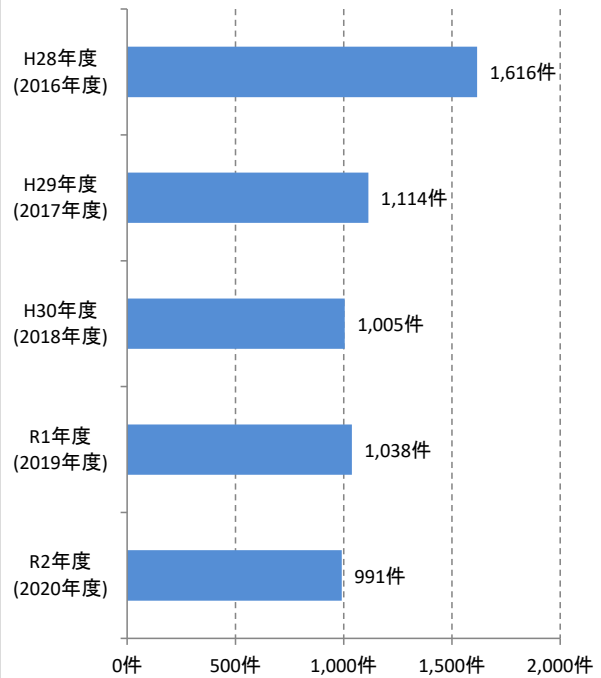
算式

件数

単位

件

PETの件数



甲状腺癌のI131内用治療件数

▶ 項目の解説

甲状腺癌の全摘術後の治療法です。県内では事実上、大学のみで行える治療であり、甲状腺癌の治療に大学病院が貢献している指標の一つと考えます。

▶ 定義

件／年

コメント

分子標的薬の開発などにより治療適応にも変化があります。しかし、県内では大学病院でしか行えない治療であることには変わりなく、今後も宮崎県民の癌治療に貢献していきます。

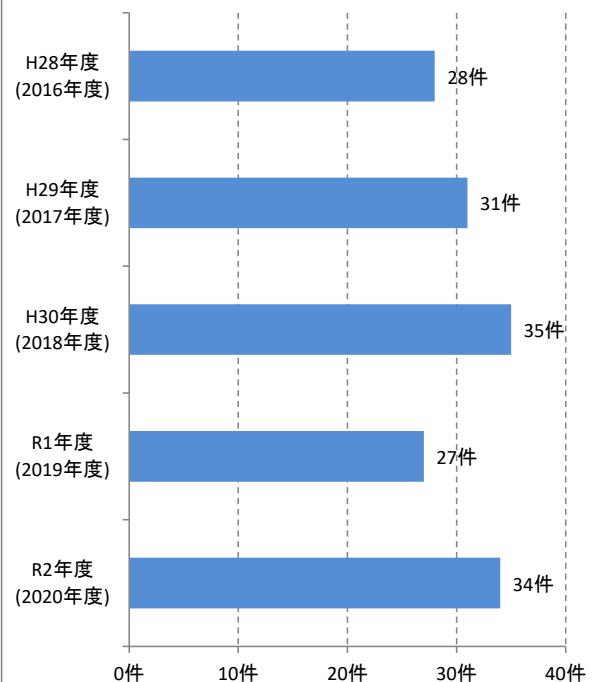
算式

件数

単位

件

甲状腺癌のI131内用治療件数



2. 大学病院特有項目:放射線治療の件数

(大学病院しかでき難いものとしてIMRT, 全身照射などを含んで)

▶項目の解説

放射線治療は機能と形態を温存できる癌の治療法であり、IMRTなど新しい治療法も開発されています。

放射線治療には高額な機器と極めて専門性の高い放射線専門医や放射線治療専門診療技師が必要です。

放射線治療は癌治療には無くてはならない治療法ですので、施設の充実度も反映する指標と考えます。

▶定義

件／年

コメント

放射線治療は厳しい管理の下で行われる治療であり、治療医や検査技師、看護師などが癌患者さんと直接対話を行いながら、予定通りに治療を行い治療効果を高めています。

実施件数が大幅に減少していますが、治療法の変化、適応の変化、スタッフ減少に伴うものであり、癌診療に貢献していることには変わりありません。

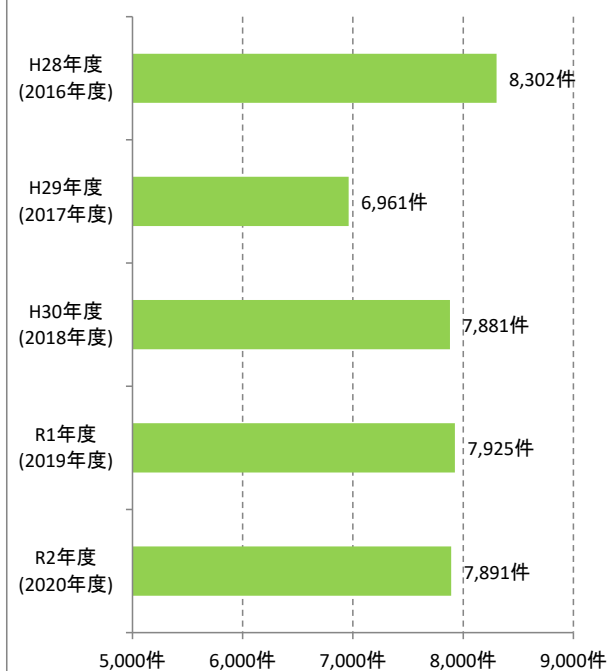
算式

件数

単位

件

放射線治療の件数



IVR

▶項目の解説

IVRは画像診断技術を応用した手術であり、IVR単独で効果を得るものだけではなく、内科的・外科的治療をサポートする治療まで応用範囲はとても広いです。

外傷患者も含め、多くの診療科の治療のリレーにより命を繋ぐ症例も多く、各診療科の技術レベルが高い大学病院においてはIVRは必要な治療である。

▶定義

1年間に放射線科IVR医が施行したIVR症例件数です。

コメント

緊急症例を含め、多種類のIVRを行っています。他大学と比較しても、種類・件数ともに多く、特に、緊急症例に対しては大学病院では例を見ない件数に対応しています。

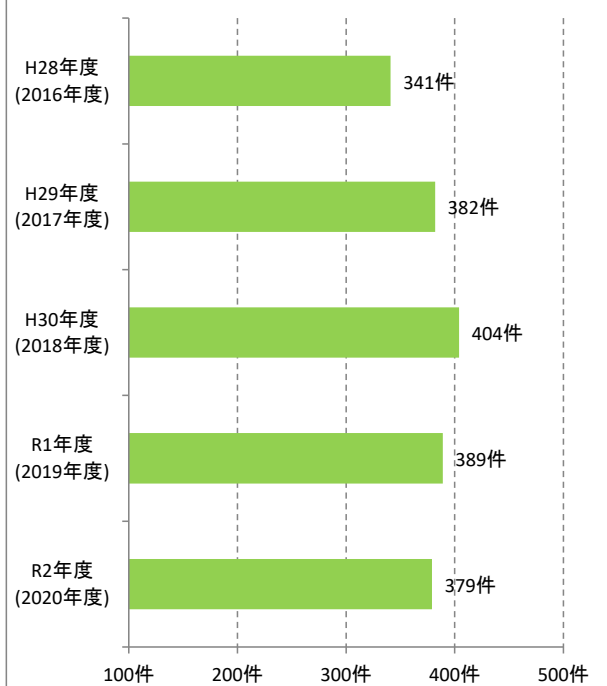
算式

1年間のIVR施行件数

単位

件

IVR



麻酔科

1. 一般的項目： 麻酔科管理症例数

▶ 項目の解説

手術室で麻酔科医がかけた麻酔症例数です。
年々増加しています。

▶ 定義

年間の麻酔科管理手術症例数です。

コメント

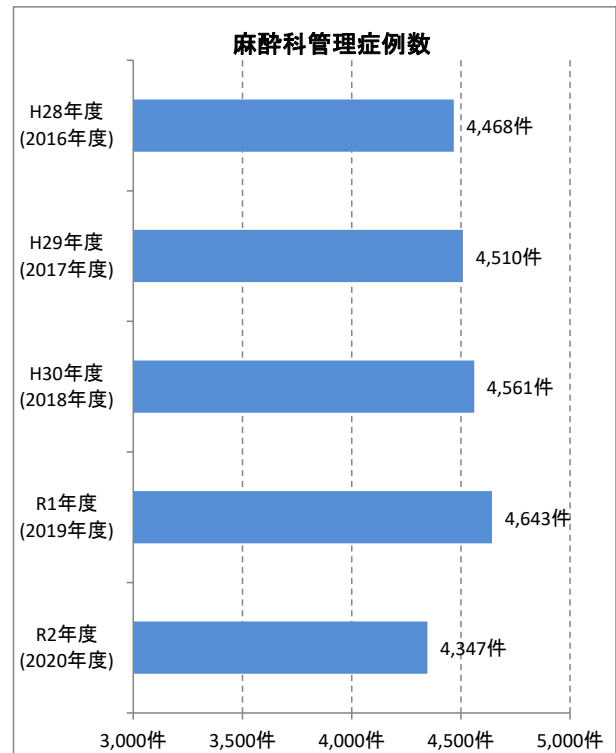
近年、症例数は4,500前後で安定しています。

算式

年間の麻酔科管理
の手術症例数

単位

件



2. 大学病院特有項目： ペインクリニック外来延べ患者数

▶ 項目の解説

ペインクリニックを受診した患者さんの数です。
難治性疼痛に罹患した患者さんが多く受診します。

▶ 定義

年間のペイン外来受診者数です。

コメント

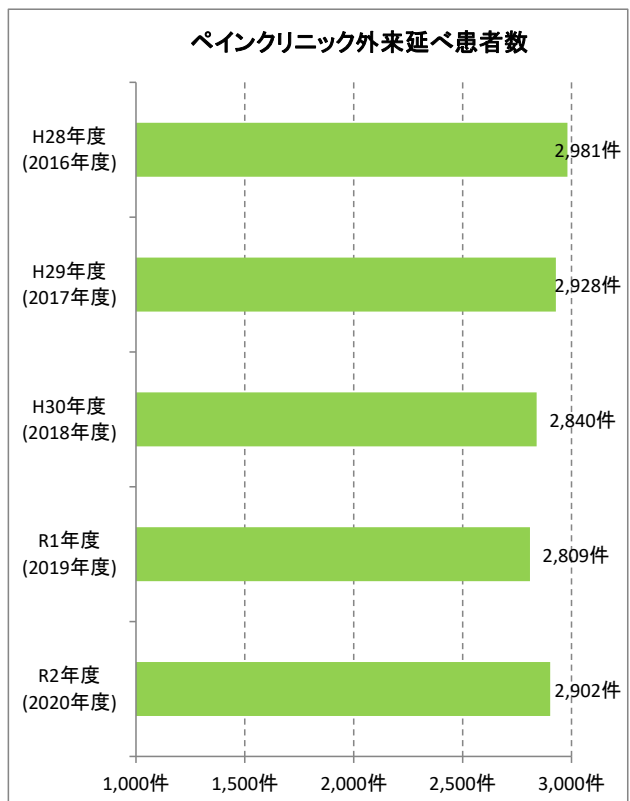
外来受診のみならず、透視下神経ブロックや入院での持続硬膜外鎮痛等も行っています。人員不足、やや症例数が減少傾向です。

算式

延べ患者数

単位

件



脳神経外科

1. 一般的項目： 脳血管内治療件数

▶ 項目の解説

脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、腫瘍栄養動脈塞栓術等に留まらず、近年では脳動脈瘤コイル塞栓術や血栓除去術などにおいても脳血管内治療の守備範囲が拡大しており、アクティビティを示す指標となり得るため。

▶ 定義

脳血管内治療により治療を受けた件数

コメント

脳血管内治療学会認定指導医・専門医の存在する研修施設として機能できるため、専門医育成・教育にもかかわれ、県内のリーディングホスピタルとして存在できます（平成30年4月1日より）。

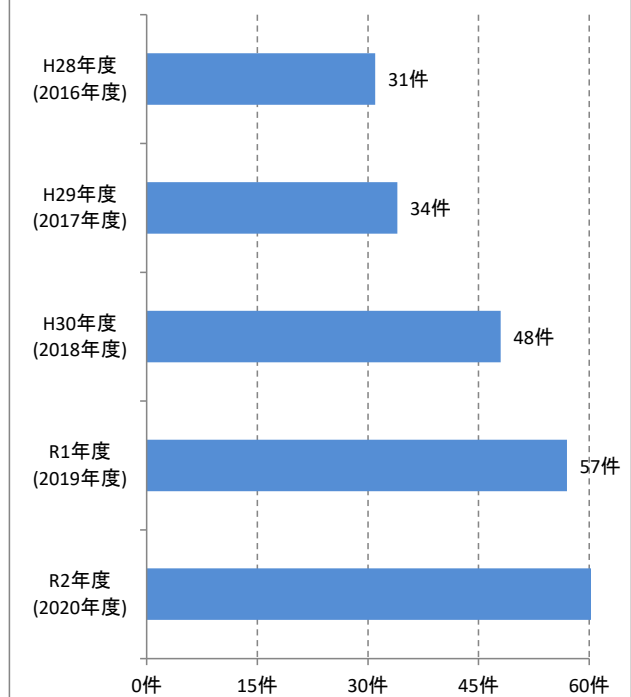
算式

延べ患者数

単位

件

脳血管内治療件数



頭蓋内外血管吻合術

▶ 項目の解説

モヤモヤ病や脳梗塞症例など、慢性的な脳血流障害を来す疾患に対して、浅側頭動脈などの頭蓋外血管と、中大脳動脈などの頭蓋内血管を吻合する手術が、将来の脳梗塞発症を防ぐ効果的な治療法であることが分かっています。

脳卒中診療のアクティビティを示す指標の一つと考えられます。

▶ 定義

年間の頭蓋内外血管吻合術を受けた患者数

コメント

これまでは、ほとんど治療が行われておりませんでした。今後は患者数を増やすと共に、日本脳卒中の外科学会技術認定医の育成にも関わっていきます。

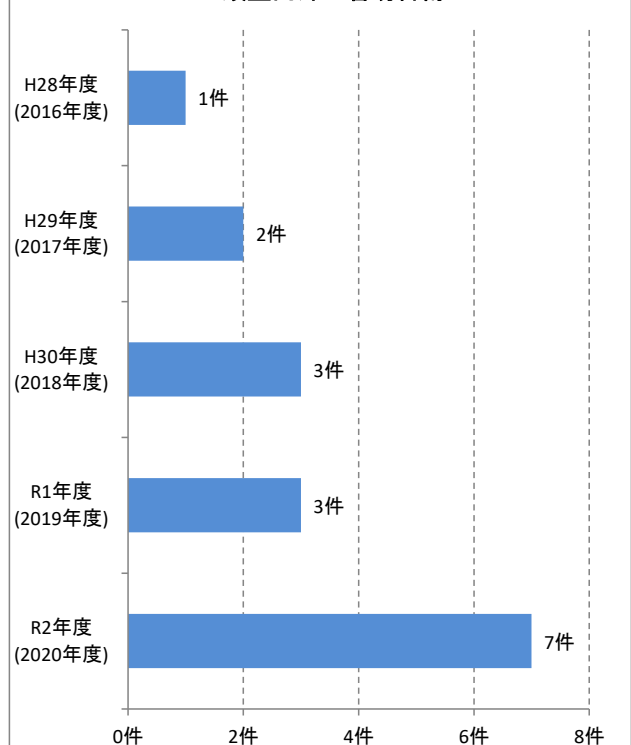
算式

延べ患者数

単位

件

頭蓋内外血管吻合術



2. 大学病院特有項目:

ナビゲーションや電気生理モニターを用いた脳腫瘍の手術件数

▶ 項目の解説

脳腫瘍は、脳内に発生し、周囲脳組織に浸潤する性格をもつタイプと脳外の脳神経、下垂体、髄膜より発生し脳を圧排しながら発育するタイプの2つにわけられます。

前者は、手術のみでは治癒は得られず、放射線・化学療法を含めた集学的治療を必要とします。

一方、後者では摘出術により治癒が得られる可能性があります。そのためには各種手術支援装置を用いてより安全に摘出する必要があります。

従って、脳腫瘍の手術は、十分な手術体制を整え、かつ適切な後療法を行える大学病院が中心とならざるを得ません。

この手術数は、脳神経外科においてスタッフと設備の充実を同時に評価する指標の1つです。

▶ 定義

年間の脳腫瘍に対する手術を受けた患者数です。

コメント

平成21年、22年においては、全国の脳神経外科を有する施設中、40位前後の脳腫瘍手術数です(朝日新聞による)。

これは、年々増加傾向にあり、さらなる件数の増加、治療成績の向上に努めています。

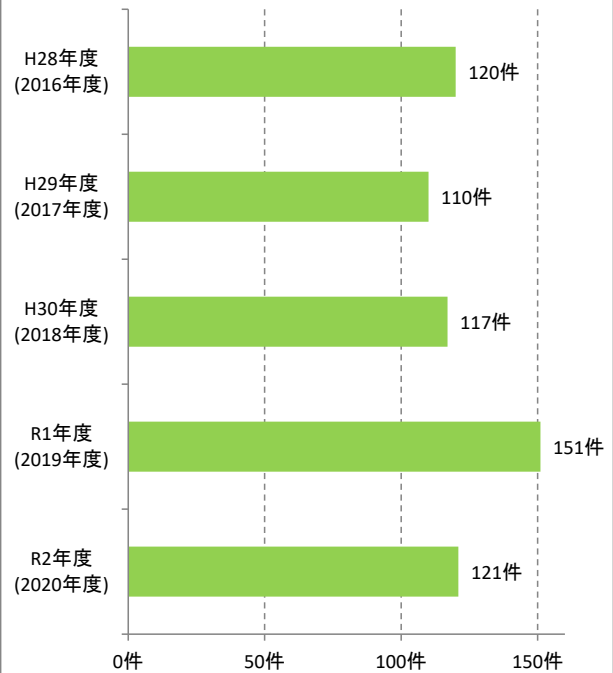
算式

延べ患者数

単位

件

ナビゲーションや電気生理モニターを用いた脳腫瘍の手術件数



2. 大学病院特有項目:

脳腫瘍の遺伝子解析

▶ 項目の解説

脳腫瘍の診断、治療において、遺伝子解析は必須事項となっています。十分な解析体制を築くことは、世界標準の治療を行う上で欠くことが出来ません。

▶ 定義

遺伝子解析症例

コメント

遺伝子解析結果を用いた正確な診断と、適切な治療が実行されています。

また、今後控えています診断基準改訂に対応すべく、準備を進めています。

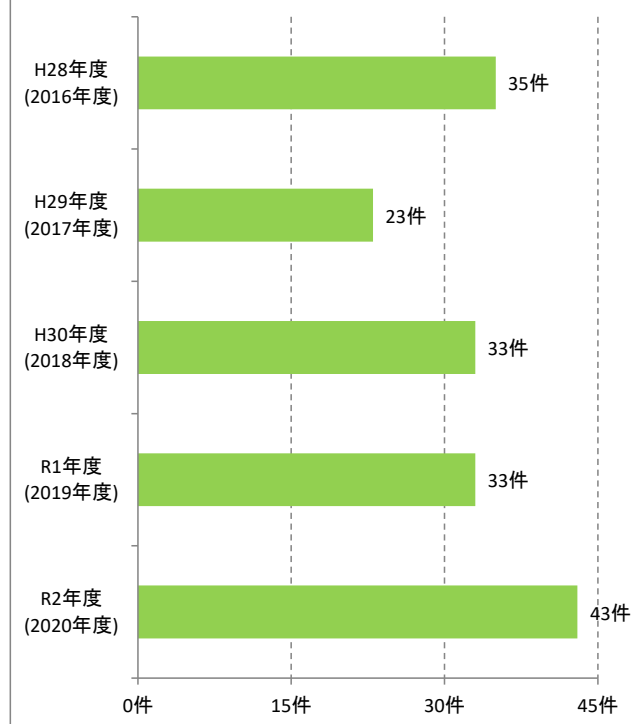
算式

延べ患者数

単位

件

脳腫瘍の遺伝子解析



フローダイバーターを用いた脳動脈瘤治療（症例数）

▶ 項目の解説

通常のクリッピング術や瘤内コイル塞栓術で治療困難な大型巨大脳動脈瘤に対して、フローダイバータースtentを用いた脳血管内治療が可能となりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

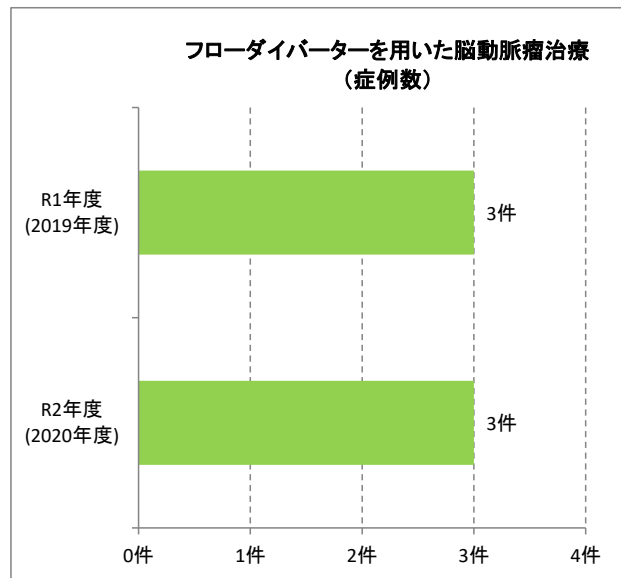
今後適応拡大と共に症例数が増加すると予想されます。

算式

延べ患者数

単位

件



1. 一般的項目： 総手術件数

▶ 項目の解説

顎顔面領域の手術では、顔面の審美性、緊密な咬合接触、および咀嚼・嚥下機能を考慮して処置を行う必要があります。
歯科口腔外科専門医と矯正歯科専門医が常勤し、一体となって診断・治療に当たりますので、質の高い治療が可能です。

▶ 定義

年間の全身麻酔下手術件数

コメント

一定の件数を保っています。救命救急センターの開設・ドクヘリの稼働開始に伴い、顎顔面領域の外傷症例も増えています。

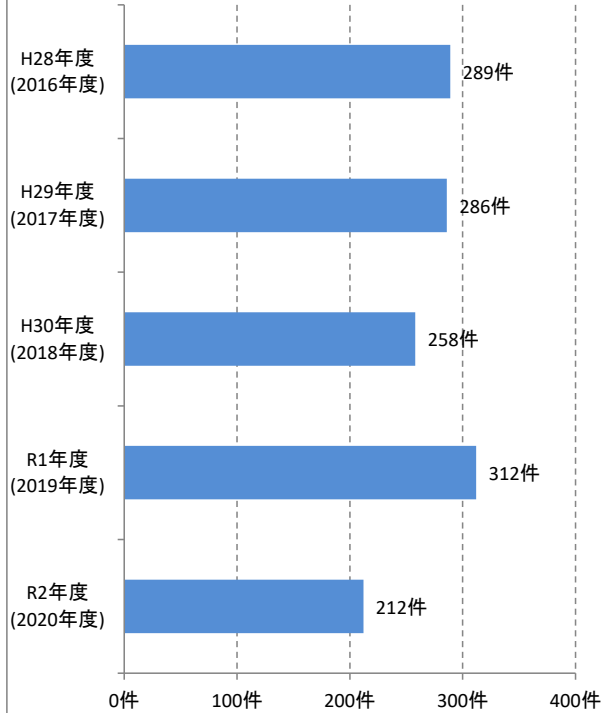
算式

手術件数

単位

件

総手術件数



口腔がん手術件数

▶ 項目の解説

口腔がんは手術が治療の主体となります。

▶ 定義

年間の口腔がんに対する全身麻酔下手術施行件数です。

コメント

一定の件数を保っています。

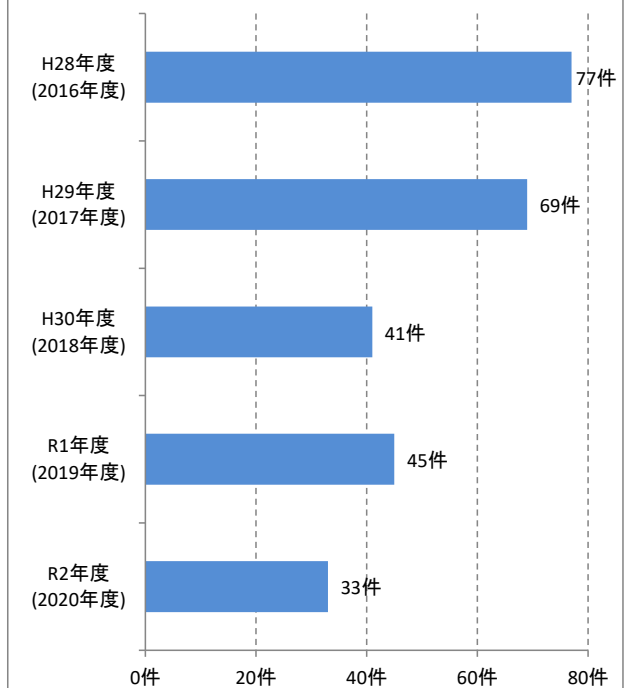
算式

手術件数

単位

件

口腔がん手術件数



口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症症例に対する手術件数

▶ 項目の解説

当院は障害者自立支援医療(育成医療)、顎口腔機能診断の指定医療機関です。

口唇口蓋裂、41の先天疾患、および下顎前突などの顎変形症の手術に健康保険が適応されます。

▶ 定義

口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症に対する全身麻酔下手術施行件数です

コメント

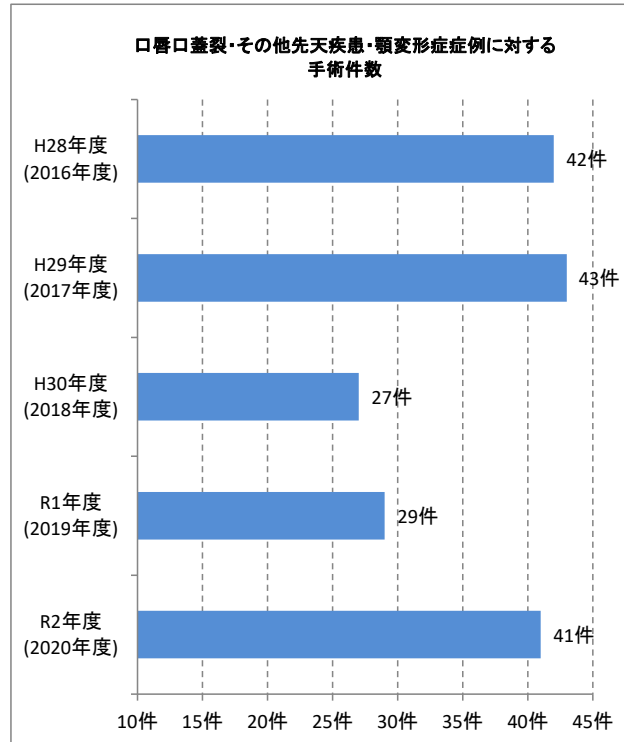
橘通り歯科口腔外科クリニックを障害者自立支援医療施設にし、より通院しやすい環境を整えたことなどにより、件数が増えています。

算式

手術件数

単位

件



周術期口腔管理

▶ 項目の解説

全身麻酔の手術や化学療法、放射線治療では、重度の口内炎や歯周炎、口腔乾燥を生じ、肺炎や感染のため、入院の主目的である治療自体に支障をきたすことがあります。

このため、平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入されました。

悪性腫瘍の手術、化学療法・放射線療法、心臓血管外科手術、臓器移植などの前後に、感染源となる歯の治療や抜歯、口腔衛生管理を行います。

▶ 定義

件/年

コメント

平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入され、各診療科からご紹介をいただいておりますが、まだまだ紹介率が低く、管理開始のタイミングも遅い傾向にあります。

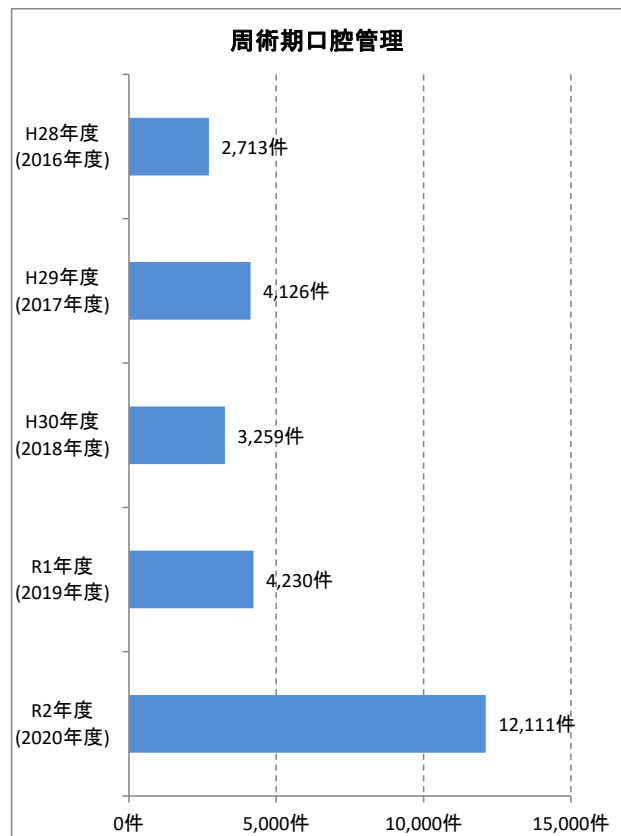
委員会などでの周知やリーフレット製作を行い、紹介率の向上に努めています。

算式

延べ患者数

単位

件



広範囲顎欠損支持型装置埋入手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った咀嚼機能をインプラントを用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

咀嚼機能の欠損は、機能性を失いQOLが低下します。インプラント埋入を行い、義歯や補綴を行うことで咬合再建手術を行います。

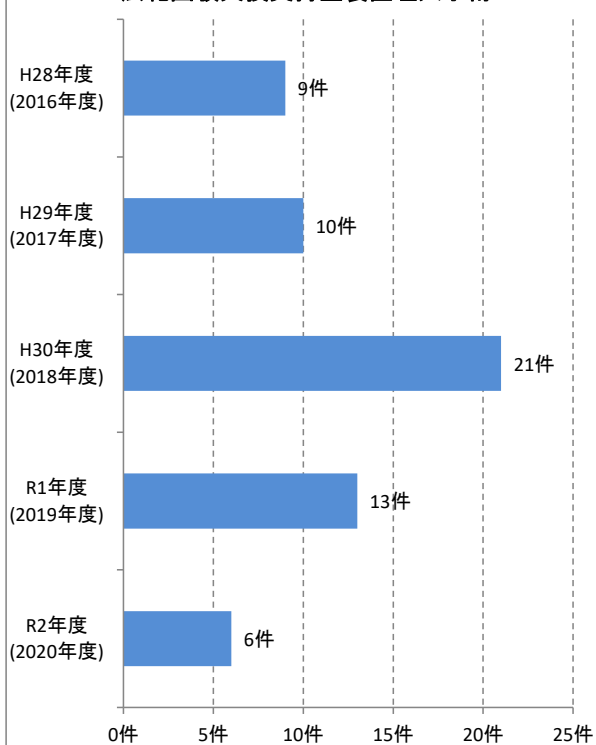
算式

手術件数

単位

件

広範囲顎欠損支持型装置埋入手術



顎口腔再建手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った顎口腔領域の組織を遊離皮弁、有形皮弁を用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

顎口腔領域の欠損は、審美性や機能性を失いQOLが低下します。審美障害、機能障害を最小限にとどめ日常生活に支障をきたさぬように再建手術を行います。

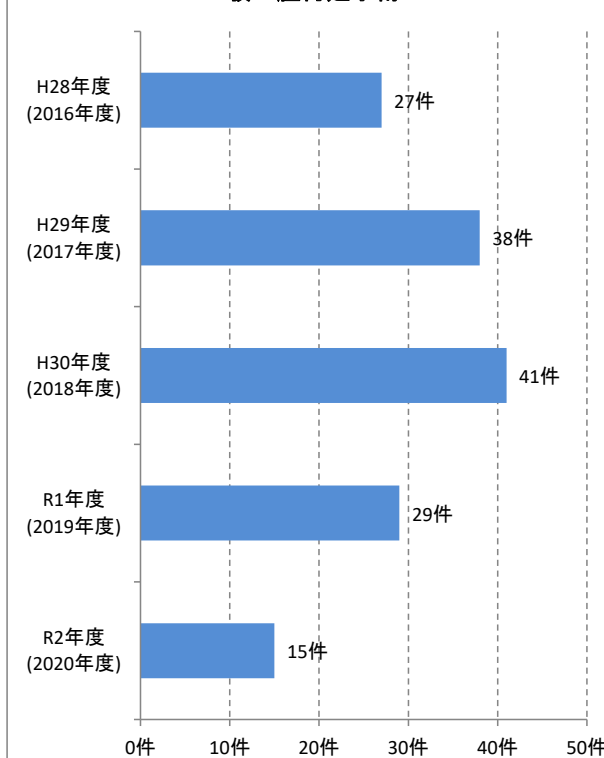
算式

手術件数

単位

件

顎口腔再建手術



顎骨骨折手術

▶ 項目の解説

顎骨骨折に対する観血的整復固定術(プレート固定)です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

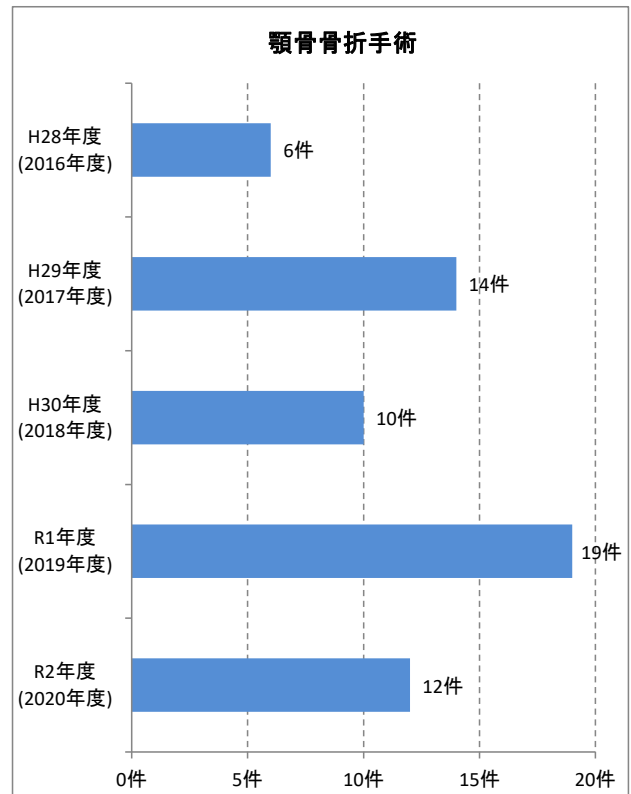
顎骨骨折は受傷から治療までの期間が短いほど治療成績は向上します。当科では原則、受診日に手術を施行しております。迅速な手術は予後を改善させ、早期退院、社会復帰を実現します。

算式

手術件数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 病理組織診断

▶ 項目の解説

体の一部(生検診断)または手術によって採取された臓器(手術材料を用いた病理診断)を、顕微鏡で観察し、癌か癌でないかなどを最終的に診断することを病理組織診断といいます。

採取された組織は、ホルマリンで固定し、さらにそこからガラス標本を作製するため、病理診断は通常1-2週間程度かかります。

腫瘍の場合、病理組織標本を用いて、抗癌剤の決定や、遺伝子学的検査が行われることもあります。

腫瘍以外の感染症、膠原病、腎臓病などにも行われます。

▶ 定義

病理組織診断は、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定し、病理診断をもとに治療法などが決定されていきます。

コメント

特に腫瘍の場合は、ほとんどの症例で病理組織診断が行われ、臨床診断と病理診断を基に治療方法が決定されます。

また最近では、それぞれの患者様の腫瘍にあった治療法を検索する際にも病理組織が利用されます。

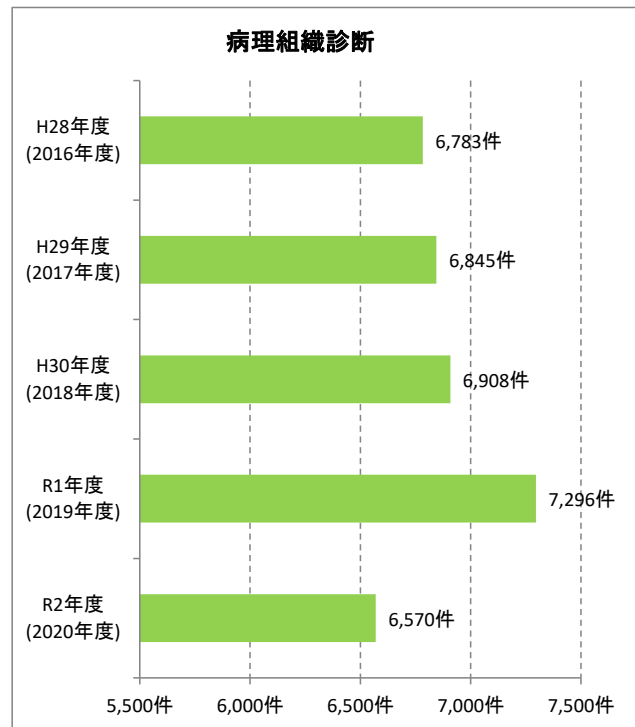
標本ができるまでも数日は必要で、病理検体が提出されてから、診断報告までには、1-2週間程度かかります。

算式

延べ件数

単位

件



術中組織診断

▶ 項目の解説

手術中に標本作製し、診断する特殊な病理診断です。通常は数日かかる標本作製を、採取された組織を凍らせて作製するので、特殊な機械、高度な標本作製の技術が必要となります。

短時間で、特殊な方法で標本作製するので、通常の病理組織標本よりも診断が難しくなります。

手術前に生検ができない脳腫瘍、卵巣腫瘍、開腹しないと採取できない部位の癌の広がりなどを判断します。

▶ 定義

手術前に採取できない部位(脳や卵巣)、手術中に予測していなかった所見があった場合は、術中病理が必要となり、病理診断によって、手術の方法や切除範囲が決定されます。

コメント

迅速病理診断の結果、良性であれば一部分の切除で手術は終わり、悪性であれば臓器を大きく切除することになります。

手術中に病理診断を行うことにより、不要な治療や、患者様の負担、医療費の低減に寄与します。取り残しがいないことを確認することにより、確実な切除範囲を決定することができます。

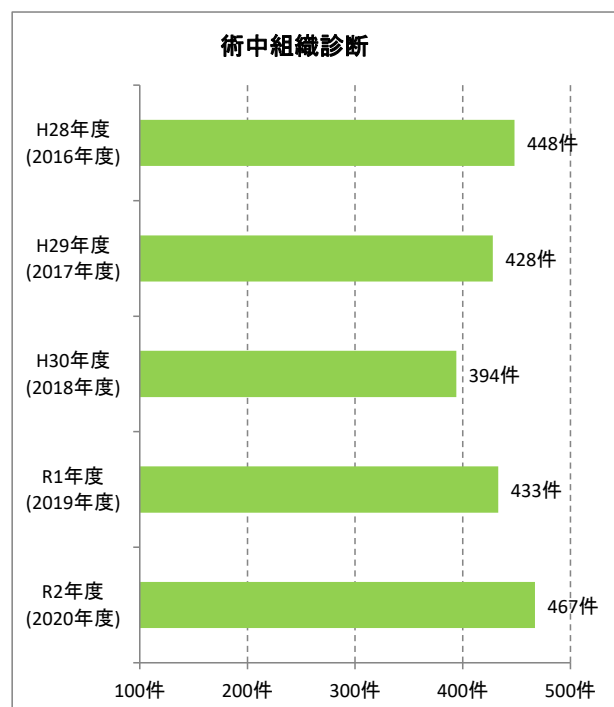
通常の手術は、手術前に切除範囲は決定され、特に必要がない場合は、術中病理は行いません。

算式

延べ件数

単位

件



細胞診診断

項目の解説

組織から剥離、または尿や分泌液などに浮遊している細胞を回収し、顕微鏡で観察し、主に腫瘍または腫瘍が疑われるかどうかを診断します。

婦人科領域では子宮頸管の擦過物、呼吸器では気管支擦過法、泌尿器では尿を遠心分離器で沈渣をとり、検査します。

その他乳腺、甲状腺、脾臓、リンパ節からも細胞を採取し、検査が行われます。

組織検査と比べると、患者様の痛みや危険性も少ないので、集団検診などでも用いられています。

定義

細胞診診断は一般には細胞診と略称されています。癌の早期発見や早期診断を目的に、人体の細胞の一部を採取し形態学的基準に基づき診断します。

コメント

細胞診検査は外注検査を主体としてましたが、平成27年より細胞診を当科で行うようになり、平成28年から院内全科の細胞診診断を行なっています。

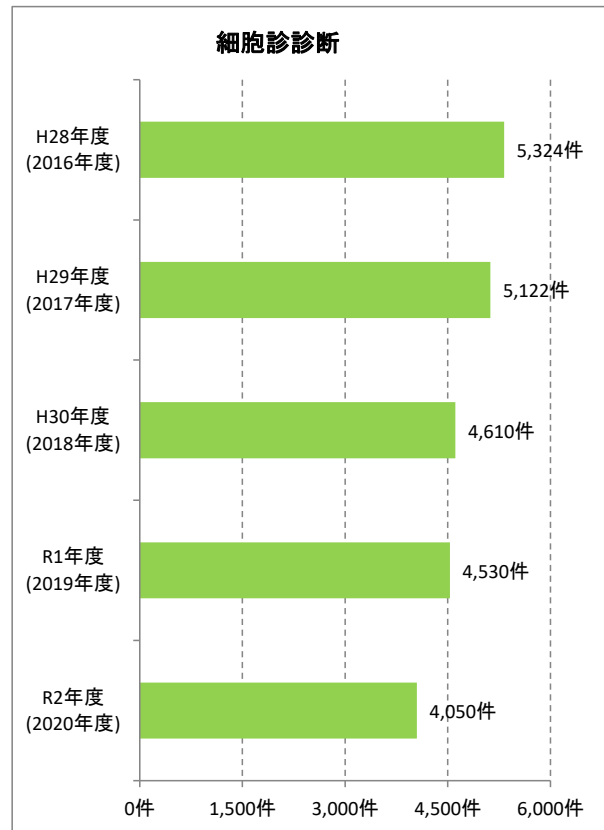
現在はベッドサイトでの細胞診(オンサイト細胞診)も診療科によっては行われ、早期の診断や確実な検体採取の確認にも重要となっています。

算式

延べ件数

単位

件



CPC(剖検症例臨床病理検討会)の検討症例率

項目の解説

CPC(剖検症例臨床病理検討会)とは、病理解剖が行われた症例を対象とし、臨床診断や診療のプロセスの妥当性を、臨床主治医および担当診療科医と病理医が一同に会し討論する症例検討会です。

診療行為を見直し、今後の治療に役立てる取り組みを評価する指標になります。

単に症例のまとめを報告するに留まらず、臨床診断・治療から死亡に至るプロセスを体系的に網羅し、大学病院の医療の質を向上させ、医学生、研修生の教育にも大いに寄与します。

定義

1年間のCPC(臨床病理検討会)の開催数を剖検数で除した割合です。学外の症例についても、担当医師を招いて実施した症例は検討症例数に含めます。

コメント

一部の子宮内胎児死亡症例(報告書のみ作製)を除き、基本的に病理解剖されたすべての症例においてCPCを開催しています。

臨床診断、治療法を病理所見から再検討することにより、病院全体の医療の質の向上を目指します。

大学病院のため、臨床研修医、医学部学生の教育のためにも役立っています。

算式

分子:CPC開催数
分母:病理解剖数

単位

%

